

目 次

■はじめに	1
■1章 市民活動センターたちかわとは	2
1-市民活動センターたちかわの使命と基本方針	2
2-立川のまちと住民の特性	2
3-市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」	3
4-市民活動センターたちかわの主なサービス	3
5-市民活動センターたちかわの特色	5
■2章 平成19年度の活動	6
1-1年間の相談集計結果と分析	6
2-平成19年度の新しい取り組み～地域福祉コーディネーター	17
3-4つの活動の柱	22
-市民参画の運営委員会によるセンター運営	22
-協働	25
-地域づくり	30
-活動支援	38
-平成19年度の市民活動センター事業を振り返って	48
-平成19年度収支決算(概略)	52
■3章 これまでの5年とこれからの5年	54
■4章 資料	58

※1章については、市民活動センターたちかわ運営委員で分担執筆しました。

運営委員会では、今後も議論を重ねながら市民発のセンター事業報告作りを試みていきます。

はじめに

市民活動センターたちかわが誕生したわけは

社会制度の規制緩和や市民生活の二極化、少子高齢社会といった人口構造や家族機能の変容など社会環境が激しく変化している。

児童虐待やひきこもりなど新たな社会問題の出現や、行政からの一律サービスだけでは解決できない多様な生活課題も浮き彫りとなっている。

地球環境の変化による生命の危機が現実味をおび、巨大災害も頻発している。

市民・行政・企業がそれぞれの力を引き出しあいながら、持続可能な社会を創っていかなければ、未来は構築できないことに私たち市民は気付きはじめています。

ひとりひとりの市民がどう社会に参画していくかが重要な時代である。

一方、阪神・淡路大震災を契機としたボランティア活動への関心の高まりや、さまざまな市民活動団体の登場、NPO 法（特定非営利活動促進法）の制定など、ボランティア・市民活動のあり様も多様化している。

こうしたことを背景に、センターに寄せられる相談や情報も実に幅広く、多様となってきた。期待される役割や事業、サービスのあり方も変化してきている。

多様性に応えられ、社会課題の解決に貢献し、たくさんの人と活動をつなぐ、市民にとって真に必要とされるセンターであるために、市民活動センターたちかわは、平成 15 年 4 月に「立川ボランティアセンター」から機能拡大をし、再スタートするに至った。

1 章 市民活動センターたちかわとは

1. 市民活動センターたちかわの使命と基本方針

【使命】

市民社会を拓きたい

【基本方針】

私たちは「市民」を、次のように思い描いています

- 1.自分で考えて行動する
- 2.社会のために行動する
- 3.地球のために行動する

私たちの考える市民社会とは、こうした市民としての自覚を持った人々が連携し、社会の課題解決に向けて取り組み、誰もが希望をもち生活できる社会である、と考えています。

2. 立川のまちと住民の特性

○人口：立川市の人口は 2008 年 4 月 1 日現在で 176,326 人、世帯数は 81,665 世帯である。戦前戦後にかけて急激な増加を続けてきた人口は、1975 年以降はゆるやかな増加に転じ現在に至っている。

※1

今後の予測としては、立川市の「第三次長期総合計画」（2000 年 3 月策定）では、2014 年における人口は、概ね 19 万人、昼間人口は 24 万人と想定している。

急激な人口増加は市民の中で他地域からの移住者が占める割合が大きいことを示している。

2008 年 1 月 1 日現在立川市の 1 世帯あたり人員は 2.2 人である。10 年前の 1998 年は 2.4 人、20 年前の 1988 年時点では 2.7 人であり、確実に 1 世帯あたりの人数は減少している。※2

○面積：24.38 平方キロメートル。※3

○地域的特色：東京都のほぼ中央西よりにあつて、都心から 40 km 圏、東京駅から電車で 50 分程度の位置にあり、八つの市に隣接している。地形的には、市城南端の日野市との境に多摩川が流れ広々とした河川敷を構成し、河岸段丘崖に緑の多い傾斜地があるほかは、概ね平坦な地形である。市全域が都市計画区域に指定されている。

また市内には JR 中央線など東西方向に 5 路線の鉄道が通るほか、多摩都市モノレールの開通により南北方向の交通も確保され、立川駅はあらゆる方向からのアクセスが容易な多摩地域の交通の中心となっている。その結果、立川駅を中心として商業・飲食施設や事務所施設などが集積、その周辺に密度の高い市街地を形成する一方、国営公園や市北部地域の農地・屋敷林・玉川上水など、緑とオープンスペースも比較的多く残されており、近代的な町並みと郊外的なうらおいが共存する、多様な面のある地域特性を持っている。※4

※1,2,3 立川市ホームページから

※4 『立川市第三次長期総合計画』「I 総序-2 本市の特徴」から

3. 市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」

『市民意向調査報告書』（2003年11月）によれば、立川市を住みよいまちだと思う人は74.9%を占めており、また今後進めていくべき重点施策として最も多いのが「高齢者・障害者福祉の充実」（39.0%）であった。※5

※5 立川市第3次長期総合計画第2次基本計画「策定に向けて、同年7～8月に市民計4000人を対象に実施

このような特色を持つ立川市民に対して、市民活動センターたちかわとしては今後に向けてどのような「立川市民像」を目指して事業を行っていくべきだろうか。

まず市民がお互いにつながっているという意識を拓いていくことを大切にしたい。いま求められている「つながり」とは、人びとが自由な意思に基づき、協力し、助けあい、出会いを楽しみながら、自分たち自身で住みよいまち・社会を形成していくための営みである。

すでに人々がつながりを形成している場として、会社、学校、サークル、市民活動グループ・団体、地域自治会、PTA など、さまざまにあるが、その場がほんとうに上に述べたような「つながり」の場として機能していくための支援を行っていくことが、市民活動センターたちかわにまず求められているといえる。

4. 市民活動センターたちかわの主なサービス

☆総合相談機能を持って、様々な市民活動の、支援サービスをしています。

■キーワード その1 『協働』……(協働支援センター)

○市民と行政の合同学習会への参画を通して「市民自治」のしくみを前進させる市民団体への参加を支援

- ・市民会議「たちかわ協働みらい会議」
- ・「自治基本条例市民研究会」
- ・たまがわ・みらいパーク(旧多摩川小学校の跡地) 企画運営委員会

○市民活動団体との協働事業や地域イベント開催を支援

- ・「ふれあいミュージックフェスティバル」
- ・「はな・まち・こころボランティア」
- ・「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」
- ・「たちかわ楽市市民祭」
- ・各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣 「立川市まちづくり政策研究会」など

■キーワード その2 『地域づくり』……(地域活動支援センター)

- 地域福祉コーディネーター
 - ・モデル地域(栄町・若葉町地区)に専任で配属し、地域の課題解決を支援
- 学校を核とした市民学習支援
 - ・市内の小・中・高校、各種学校の授業プログラムを地域の人や機関、市民活動団体とともに実施
 - ・教育機関や市民活動団体の連携を支援
- グッドネイバー推進団体を支援
 - ・「よき隣人」をキーワードに、小地域単位での住民主体のまちづくりを進める、市内4 地区(柴崎・栄・若葉・西砂一番)の団体の支援
- 「支えあいサロン」活動を支援

■キーワード その3 『活動支援』……(ボランティアセンター)(NPO支援センター)

- 日々の市民活動に関する相談
 - ・「ボランティアしたい」「サポートしてくれる市民活動団体を探している」「NPO 法人を立ち上げるにはどうしたらいいのか」「立川でイベントをするので広報周知してほしい」
- 団塊の世代の市民活動参加支援
 - ・商工会議所との協働プログラム「はな・まち・こころボランティア」の実施など
- 市民おもしろ大学の開催
 - ・毎回、魅力的な生き様の市民を迎え、その生き様に触れると共に、その場に集まった参加者の学びあいの機会を作る
- 市民活動体験プログラム
 - ・夏!体験ボランティア
- 情報の受発信
 - ・ホームページ『市民活動WEB たちかわ』の運営と管理 各団体の活動情報を発信
 - ・市民活動情報コーナーの設置
紙媒体による情報収集、インターネットでの情報検索ができるコーナーを運営
 - ・情報誌『市民活動センター★たちかわ通信』を毎月1 日に発行
 - ・『市民活動センター登録団体紹介BOOK 』の発行
 - ・市民活動センターたちかわ登録団体や情報希望者との連携
- NPO 法人設立ガイダンス
 - ・NPO 法の解説や法人化の意義、設立に向けた手順や事務について定例開催
- 市民活動団体向け実務講座
- 市民活動団体向け組織力パワーアップ講座
- 活動資金助成
 - ・各種民間団体の助成情報の周知
 - ・市民活動センター助成事業 市民活動団体の立ち上げまたは活動資金を支援
- 活動スペースの貸出し
- 機材の貸出し

- ・印刷機、拡大印刷機、コピー機、紙折り機、パソコン、図書など各種備品の貸出し
- ・他の施設、団体と共有できる物品の貸出し

たちかわパソコン倶楽部・・・プロジェクター、スクリーン

虹の音楽隊・・・電子ピアノ

○ボランティア保険および行事保険の相談や加入受付

5. 市民活動センターたちかわの特色

「市民活動センターたちかわ」は市民運営委員と職員を交えた20余名の合議型運営方式で運営している。

ボランティアや市民活動団体を支援すること(中間支援)を通して、社会の様々な課題解決に貢献することを目指し、日々、市民や団体を『つなぎ』、『育み』、『拓く』役割を担っている。

また、各地の市民活動センターと比較して私達のセンターの特色といえるのは、いろいろな所から寄せられる多様な相談を大事にしていることである。漠然とした行き場のない相談の中に、新たな社会の課題が見え隠れし、市民発の活動として取り組む意義のある案件が多く含まれているからである。

市民や市民団体から聞こえてくる多くの声から市民社会の見えないNeedsやwantsを探り『協働』、『地域づくり』、『活動支援』の3つのキーワードからなる事業を推進していく。地域や市民に根ざしたセンターを目指して、相手の声を直接に聞き、コミュニケーションを取りながら適切な役割を担うという手法を積極的に取り入れている。(P5.2章 平成19年度の活動 参照)



設立から5年が経過したが、センターは現状に満足することなく、協働事業のあり方や「これからの公共」について発信力を持つ大阪ボランティア協会やせんだい・みやぎNPOセンターなどを目標として、各地の先進事例等を学びながら次の5年の活動に向け、多くの市民から愛される市民活動センターとなるよう取り組みは始めている。^{※1}

※1大阪ボランティア協会 <http://www.osakavol.org/>

せんだい・みやぎNPOセンター <http://www.minmin.org/>

2章 平成 19 年度の活動

1. 1 年間の相談集計結果と分析

ボランティア活動や NPO、地域活動に関する相談を市民活動センター窓口や、立川市社会福祉協議会あいあいステーション窓口、事業を実施する中などで受け付けた。相談内容に応じて、情報提供、課題整理のお手伝い、人や機関をつなぐコーディネート、生活課題解決のための個別相談につながった。

相談内容も多岐に渡るため、個々の相談に応じて、その場面で必要な役割と支援を見極めることと、相談者である市民自身が持つ解決力を引き出すことを、市民活動センターの相談受付においては大事にしている。

また、センターに寄せられる相談から、その時々々の社会課題、地域課題、市民活動に関する現状が浮かび上がってくる。これらの相談内容は、今後のセンター事業を方向付ける基盤となっている。今年度の大きな特徴として、以下の 4 点がある。

①「本当に役立つ情報」が求められている

市民活動センターたちかわだからこそ入手できる「具体的な人となりや活動が分かる情報」や「この辺りの地域で私たちが使える社会資源は何か」といった、きめ細やかな情報が求められている。またある情報を一面的に捉えるのではなく、そこから新たな可能性を引き出し「役立つ情報」にしていくことも大切な働きと捉えている。

②多様なつながりをつくる相談が増加している

障害者施設と企業の連携や団体の活動分野を越えた多様なつながりをつくるための支援が増えている。立川というまちに密着したセンターなので、永く付き合ってもらえるように、相談の幅を狭めず、連帯していく姿勢を大事にしたい。

③より地域に密着した活動により課題を掘り起こしがしやすくなっている

平成 19 年度より地域福祉コーディネーターがモデル的に配置され、地域における交流の場作りや団体間のネットワークづくり、調査活動、普及啓発活動を行なっている。より地域に密着した活動が展開できるようになり、相談を待つだけでなく、課題の掘り起こしや早期発見ができるようになった。

④専門機関との新たな連携が必要な相談が増加している

閉じこもりの方や、精神的ダメージを強く受けている方からの相談も増えている。そのため、カウンセリングの専門技術を必要とする相談なども見受けられる。センターとしての対応の限界点を見極めると同時に、新たな専門機関との連携が必須な状況である。

(1) 市民活動に関する相談

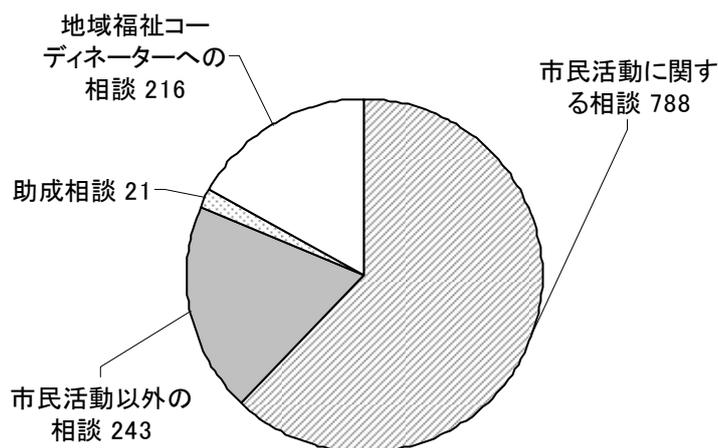
○相談件数 1,268件（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

- ・市民活動に関する相談 788件(夏！体験ボランティア132件を含む)
- ・市民活動以外の相談 243件
- ・助成事業申請相談 21件
- ・地域福祉コーディネーターへの相談 216件

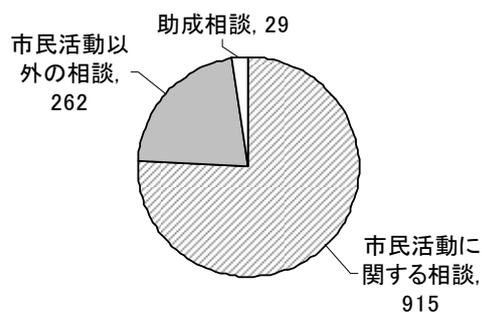
※下記の集計は市民活動に関する相談及び市民活動以外の相談（助成事業相談は除く）1,031件を集計。

※相談の内容や相談者の属性などは緩やかではあるが変化をしている。頂いた相談は分析のために項目を設けて整理しているが、その項目も相談者の実態に合わせて柔軟に変更していく予定である。

相談件数の割合 1,268件

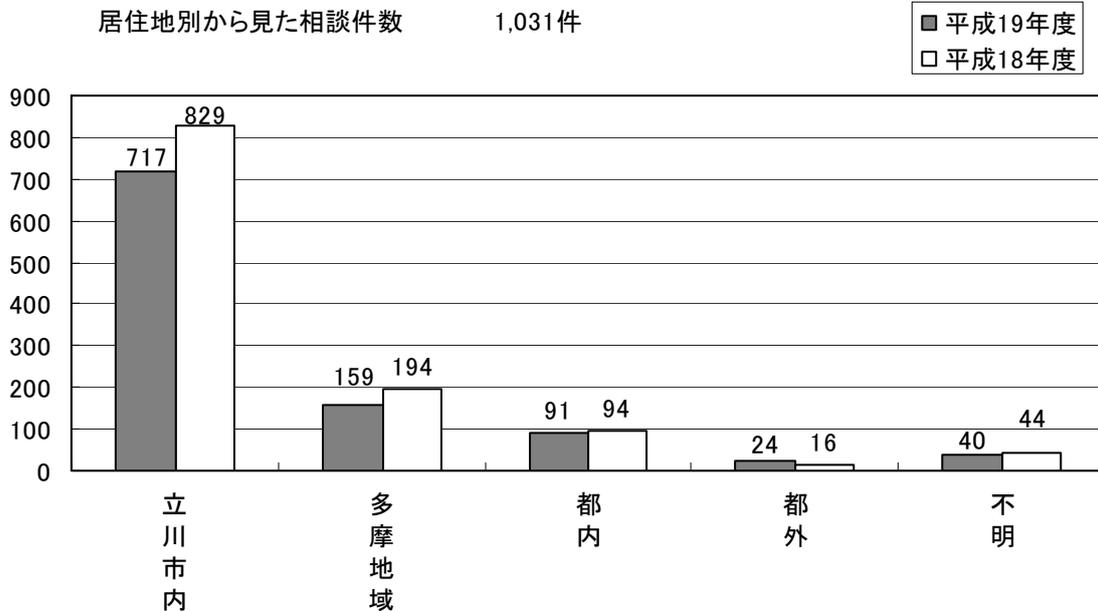


平成18年度
相談件数の割合 1,206件

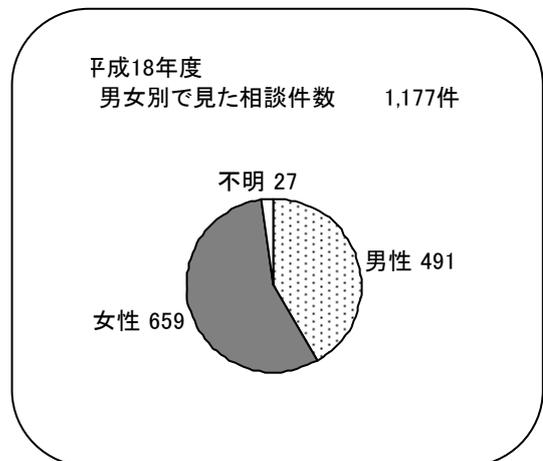
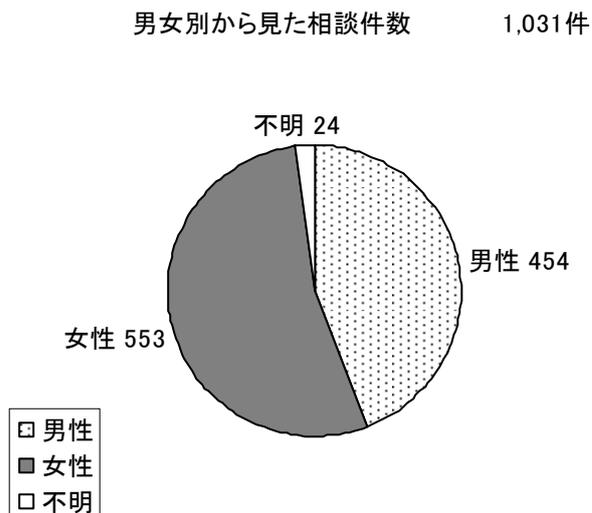


■相談者の様子

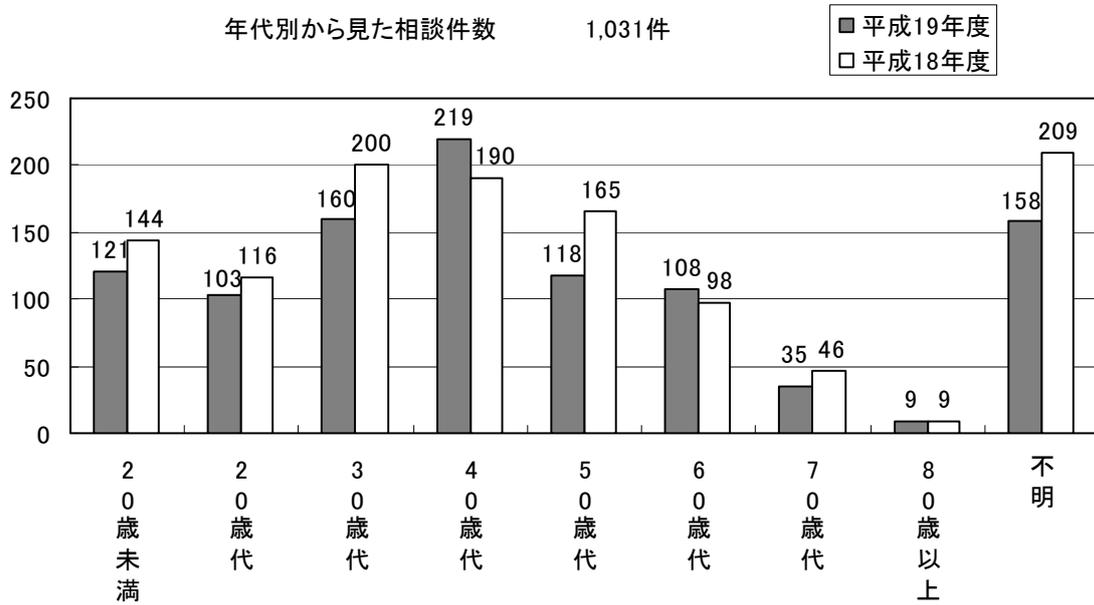
相談者の居住地は、前年度と同様に立川市内が最も多いが、市外から（特に都内の法人などから）の相談も寄せられている。市外からの相談については、相談者がお住まいの社会福祉協議会や同様のサービスを行なっている施設・団体へつなぐことも行なっている。



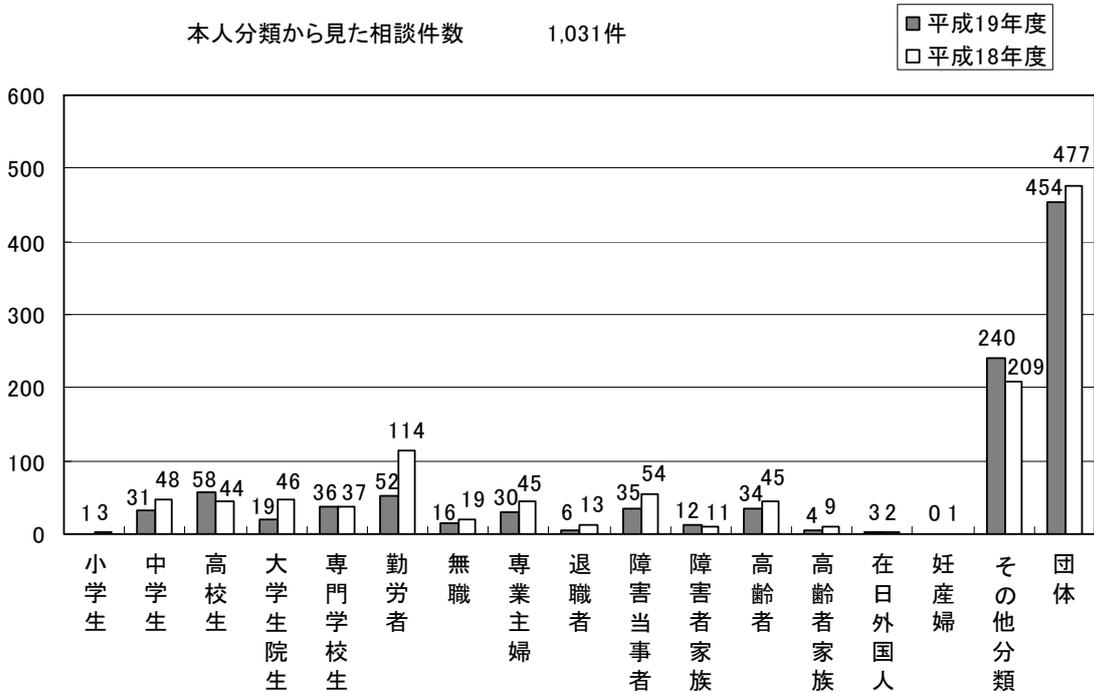
男女比は前年度同様の割合である。



今年度は40代と60代からのご相談が増加している。また、不明が多いのは、電話やメールで完了するような相談も多く、年代を確認するに至らないことが原因である。

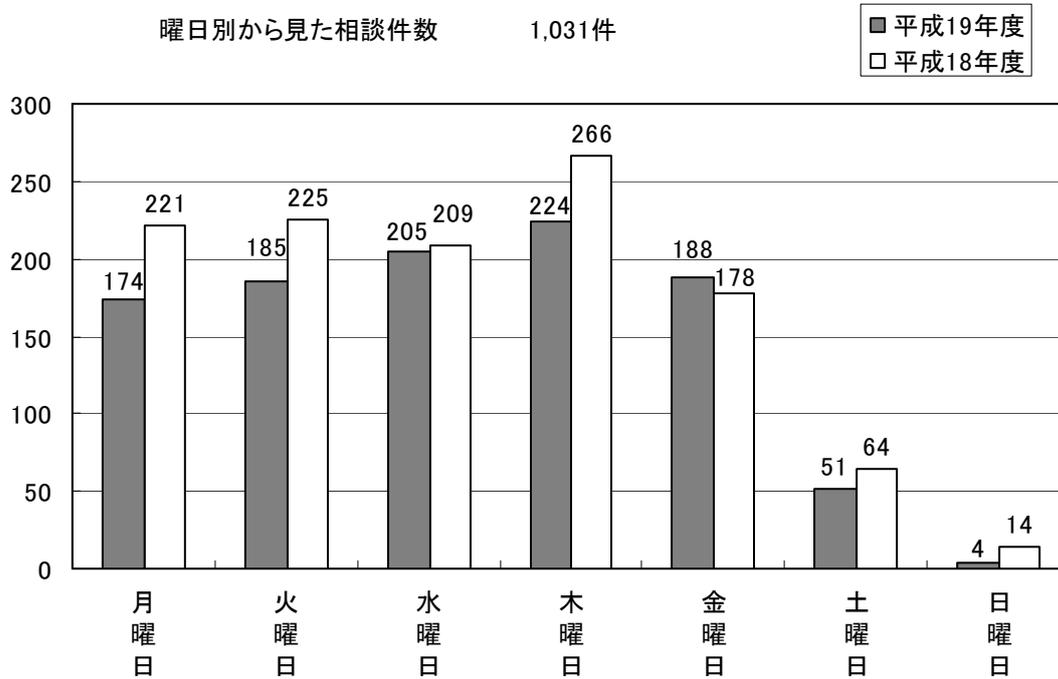


本人分類で見ると団体からの相談が多い。また、その他分類の件数も増えている。その他分類には学校や行政、他地区社会福祉協議会からの相談が多い。また、少しずつではあるが企業からの相談も増えている。

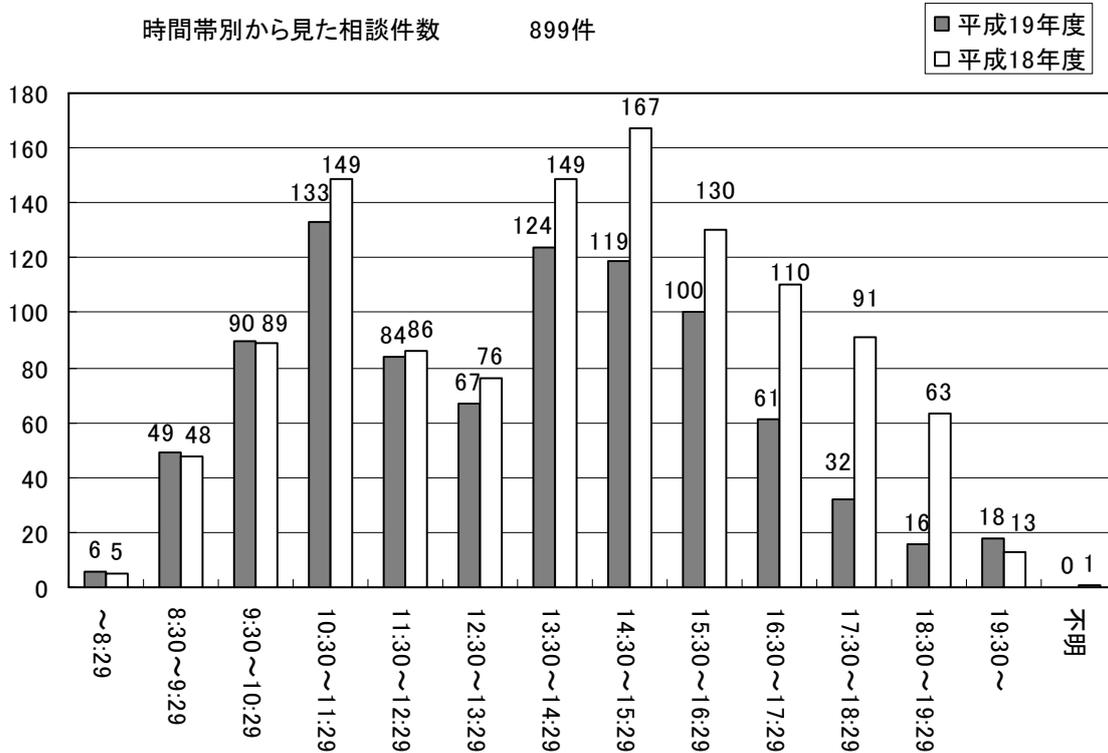


■相談が寄せられる日時の傾向

センター開所日のうち、土曜日の相談件数が少ない。また、昨年度と同様に木曜日の相談が1週間の中で最も多くなっている。



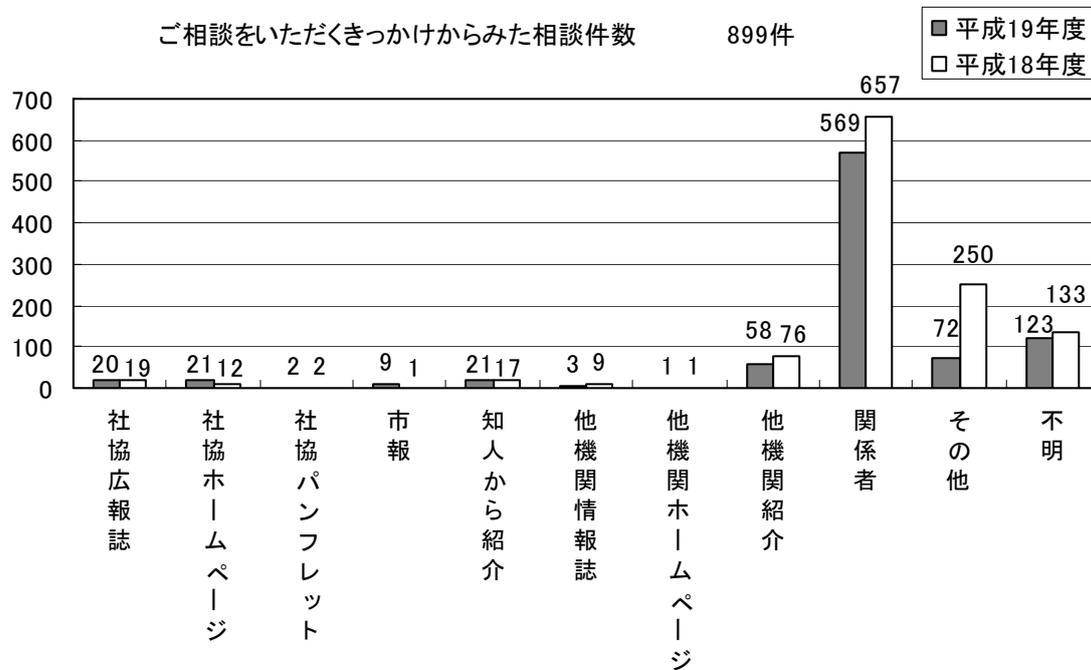
相談が寄せられる時間帯については、昨年度とほぼ同様である。なお、夏！体験ボランティアについては、来所時間を集計していないため、時間帯別から見た相談件数には含んでいない。



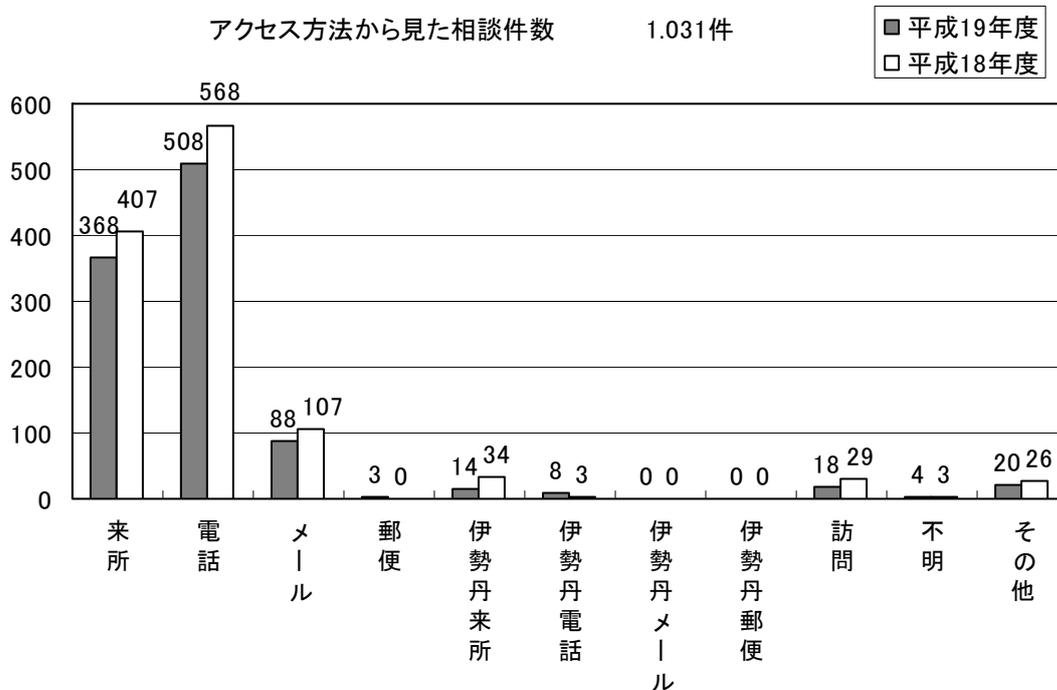
■センターに連絡を入れるきっかけとアクセス方法

昨年度は減少していた広報媒体だが、今年度はまたわずかながら増加している。また、この項目についても、夏！体験ボランティアでの集計は行なっていないため件数には含めていない。

なお、「関係者」とは、一度でもセンターを利用したことのある方を含めている。



アクセス方法については、前年度と同様である。

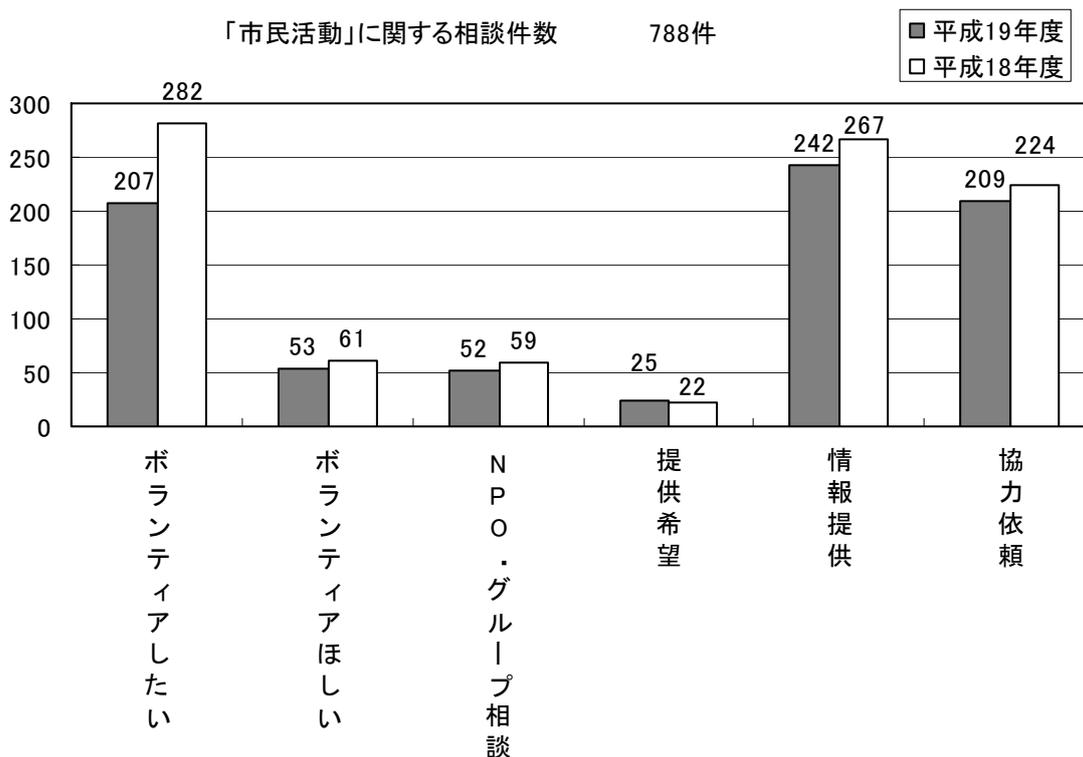


■市民活動に関する相談内容

全体的な相談件数としては昨年度(1,206件)に比べてわずかではあるが増加している。

市民活動に関する相談の総数は、前年度(平成18年度は915件)に比べて減少しているが、今年度より地域福祉コーディネーターをモデル的に配置しており、集計方法の違いなどもあるため一概には減少しているとは言えない。

今年度の特徴としては、「ボランティア・市民活動したい」という相談が減少している。但し、先にも述べたように、地域福祉コーディネーターへの相談件数も含めると昨年度並みの件数である。他の相談についても昨年度と比べて大幅な変動はない。



「ボランティア・市民活動したい」「ボランティア・市民活動ほしい」という相談には、以下のような相談が寄せられている。最初から希望するボランティア活動のイメージを持っていない相談者も多く、その都度、相談者のニーズに合うような活動やボランティアを一緒に探している。

	ボランティア・市民活動したい	ボランティア・市民活動ほしい
保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者介護、見守り ・傾聴 ・障害者介助 ・手話 ・演奏活動 ・囲碁、将棋 ・着付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設での活動 (バス遠足付添、イベント補助及び出演者等) ・傾聴 ・健康体操 ・外出支援 ・障害者施設での作業補助

	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問マッサージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼い犬の散歩
文化・芸術・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・大道芸 ・ハーブコーディネーター ・囲碁、将棋 ・紙芝居 ・スポーツ指導 ・楽器演奏 ・ビデオ撮影、編集 ・落語 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りでの和太鼓演奏 ・植木の手入れ ・手芸
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援 ・保育、見守り ・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育 ・学校から学童までの送迎 ・手品 ・体育の指導者 ・生徒の介助
国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の翻訳 ・家事支援 ・イベント補助 ・日本語学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語通訳 ・ホームステイ受入先
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体広報誌入力 ・パソコン指導 ・文書入力
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害救助 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントでの会場整理 ・映画のエキストラ ・団体事務作業

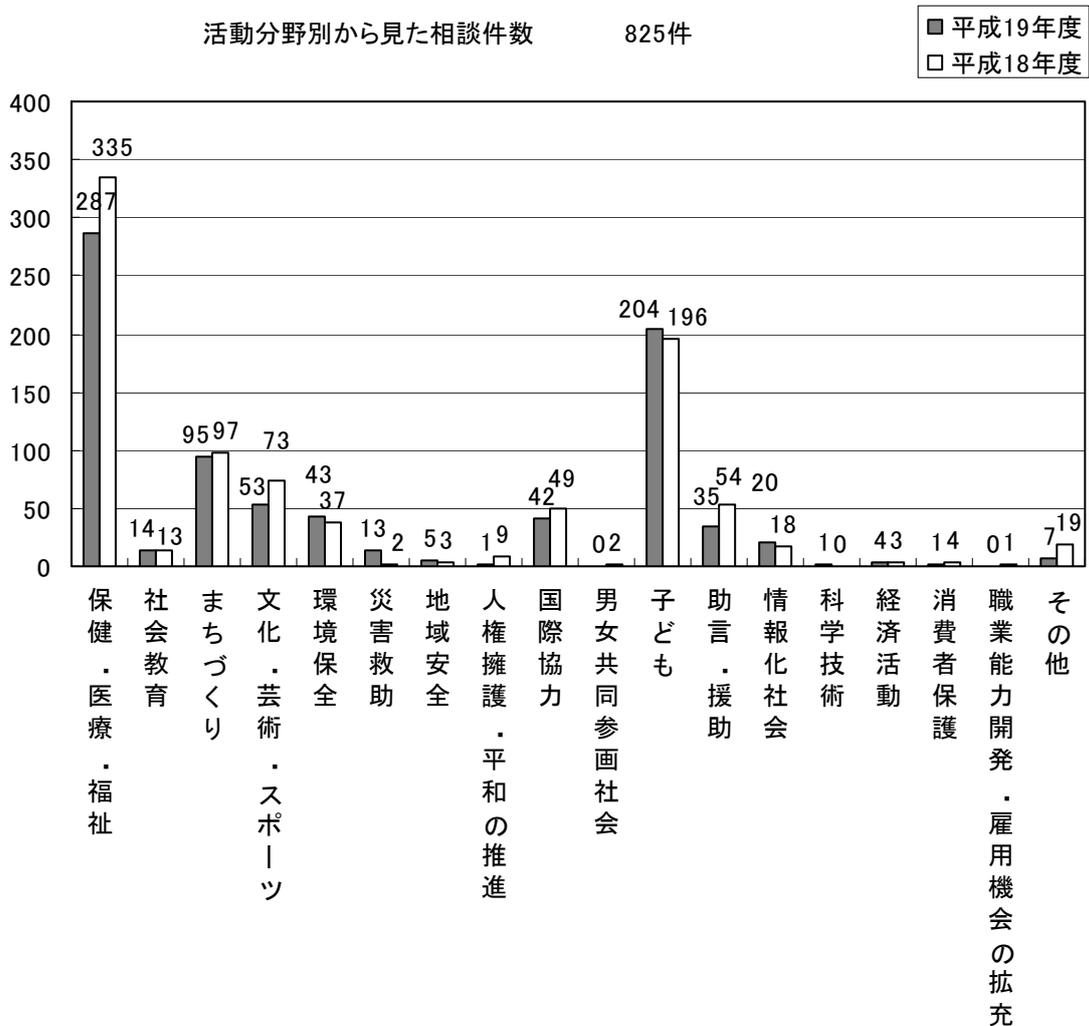
○「ボランティアしたい」という相談の一例

地域包括支援センターが開催した介護予防リーダー養成講座の参加者から、講座の終了後、すぐに活動することは難しいため、身につけたスキルを実践し、経験を積める場所を紹介して欲しいと相談を受けた。

センターでは、相談者の自宅付近にある介護系 NPO 法人や健康体操を指導している団体の情報を提供した。また、同じ講座を受講していた民生委員さんとお引き合わせをした。その後、民生委員さんからの発信により、廃校となった小学校で高齢者サロンが開催され、世話役の 1 人として参加している。相談者は、この高齢者サロンで経験を積んだ後、自宅付近の地域での開催も視野に入れている。センターとしても、継続した支援を行い、想いをカタチにしていくお手伝いができればと考えている。

相談内容をNPO法の17分野に当てはめてみると、「保健・医療・福祉」分野が最も多く、次いで「子ども」である。今年度の特徴として災害救助に関する相談が増えている。これは、立川市が平成19年6月に策定した「立川市地域防災計画」に関する相談が増えたり、中越沖地震への職員派遣などを行なったりしたためである。

なお、活動分野については、夏！体験ボランティアで複数の分野での活動に参加した方がいたため、総数よりも件数が多くなっている。



(2)「市民活動」以外の相談

「市民活動」に関する相談以外にも、生活に関わる相談が以下のように寄せられている。

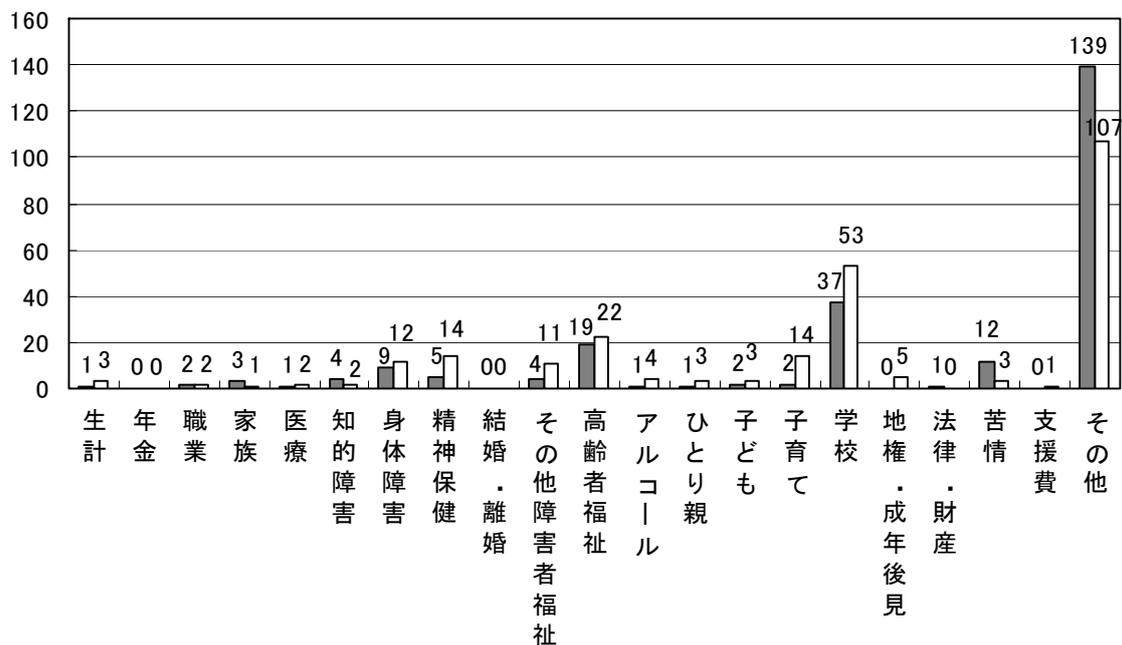
件数としては昨年度に比べて大幅な変動はないが、地域福祉コーディネーターの配置により、生活や地域に密着した相談も増えてきている。

また、分野に当てはまらない「その他」の相談が最も多く、どの相談機関を訪ねたらよいか分からない（新たな社会的課題や公的サービスの隙間など）相談が多いことも特徴である。

市民活動以外の相談の中で、もっとも多い「その他」の分野には以下のような相談がある。

「市民活動」以外の相談件数 243件

■平成19年度
□平成18年度



「その他」の相談内容

問合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランメニューの点訳について ・都立高校「奉仕」教育支援コーディネーターについて ・市民活動センターのサービス内容や運営について（ホームページ、貸出機材、相談データベース等）
協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域懇談会と市民交流大学の協働提案 ・多摩検定受験者のその後の活動について
協力依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・市民会議やその他委員会委員の紹介 ・外部団体からの委員会委員派遣依頼 ・大学等からの調査研究依頼 ・市民活動センターたちかわの取材
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャー資格取得者からの地域資源調査 ・空き店舗利用について ・起業について ・社会貢献に関する事例紹介 ・高次能機能障害家族会について
活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、相談を受けて進めている相談者の活動の経過報告等（自宅敷地を開放して行なうサロン活動等）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情(事業で配布したチラシの文言に関する苦情等) ・市民活動センターで実施して欲しい事業の提案 ・おもしろ大学の講師希望 ・立川市社会福祉協議会の会費について

○公的サービスの隙間にある相談の一例

市内小学校の教員より、肢体不自由の2年生女児の介助員が辞めることになり新しい介助員を探していると相談を受ける。女児は脳性マヒのため、トイレは全介助。立位も困難で車イス操作も出来ない。何よりも、介助員が辞めるまで1ヶ月と時間の猶予がない状況であった。このようなケースは、毎年、年度替りに多く寄せられる。

センターとしては、その都度の対応ではなく、新たな仕組みの必要性を感じていたこともあり、障害者の居宅介護事業を行なっているNPO法人のヘルパー派遣事業の枠組みの中で介助員を派遣していただけるよう協力をお願いした。また、市内の大学などにも呼びかけひろく介助員を募った。

結果として、協力をお願いしたNPO法人から1名、教員免許を持つ大学卒業生から1名の介助員が見つかり、女児が安心して学校へ行ける環境をつくることができた。

しかし、事業所との契約はできず、介助員個人との契約しか現状ではできないことや、NPO法人へのコーディネート料の予算化など、より利用しやすい制度改正に向けての課題は、まだ多く残されている。

2. 平成 19 年度の新しい取り組み ～地域福祉コーディネーター

平成 16 年度に、「立川市社会福祉協議会地域福祉市民活動計画」（これ以降「第 2 次立川あいあいプラン 21」）及び「立川市地域福祉計画」を行政と連携して策定した。この計画を推進する手段のひとつとして、地域活動を専任する職員を平成 19 年度から 1 名配置した。この職員は地域福祉コーディネーター（以下「コーディネーター」という名称で栄町と若葉町を担当し、3 年間のモデル配置をする。

1 年目は、地域懇談会の開催、地域における交流の場作り、団体間のネットワークづくり、調査活動、周知活動、個別相談などを中心に活動をした。また、コーディネーターの活動評価基準については、あいあいプラン 21 推進評価委員会の中で検討され、各事業の評価についても論議された。

(1) 地域懇談会の開催

あいあいプランの計画策定時などは、地域の課題について住民に意見を出してもらうために地域懇談会を開催した。今年度は、防災、介護、公衆衛生など分野別に話し合う場を設定してきた。

■「防災！帰宅困難者図上体験訓練」

- 日 時 平成 19 年 10 月 13 日（土）
- 場 所 幸学習館
- 内 容 1 組 7～8 名のグループに別れ、新宿にいた時に大地震が起き、栄町まで徒歩で帰る際の、道路状況、水・食糧、体調などをイメージしながら帰宅する図上訓練を行なった。
- 参加者 地域住民 23 名、スタッフ 14 名、取材 1 名（マイテレビ）



帰宅困難者図上体験訓練

■飼い主のいない猫への対策

自治会長へのヒアリングをする中で、飼い主のいない猫をめぐっての住民トラブルが多く発生しているという情報を複数から頂いた。まずは他地域の先行事例などに学び、活動のきっかけにするため、立川市自治会連合会栄町支部との共催で、シンポジウムを開催した。その後もシンポジウムの参加者や有志が集り、定期的な会合を通じて栄緑道を手始めに猫の捕獲・不妊去勢手術を実施している。コーディネーターは会議に参加し連携をとりながら、活動を手伝っている。

- 日 時 平成 19 年 11 月 3 日（土）
- 会 場 さかえ会館
- テーマ 「栄町の地域猫を考える」 日本動物福祉協会ほか 3 団体から講師を招き、現在の動物愛護、公衆衛生についての住民活動、災害時のペットの保護について話を聞き、参加者との質疑応答を行なった。
- 参加者 地域住民 34 名、スタッフ 8 名

■「栄町 5 丁目アパート自治会役員等」との懇談会の開催

- 日 時 平成 19 年 10 月 4 日（木）
- 会 場 自治会集会所
- 内 容 健康保持、要介護予防の為の健康体操の実施や定期的なおしゃべり会の開催の提案

- 参加者 自治会役員等 18 名 福祉総務課 2 名、北部東わかば地域包括支援センター 1 名、社協 2 名
- 成果 健康いきいき体操の実施、および支えあいサロンへの登録につながり、住民の集う場所を確保することにつながった。

(2) 交流の場作り

地域での地域社会において、住民同士が交流する場が少なくなっていることは多く指摘されている。特に高齢者や子育て中の人で孤立しがちな人が多く、意識的に交流の場や機会を作ることが介護予防や子育て環境の整備には欠かせない。今年度は、主に高齢者向けに北部東わかば地域包括支援センターに認知症予防講座のプログラムを作ってもらい、栄町グッドネイバーに開催までの交渉をしてもらうなど、地域と連携しながらサービスを提供した。

○地域団体への働きかけの状況（わかば包括、民生委員、栄 GN の協力）

- ・ 7/19 江の島道東住宅自治会 認知症予防教室
- ・ 8/20 東栄長寿会 認知症予防教室
- ・ 9/18 天寿会 認知症予防教室
- ・ 10/ 4 栄町 5 丁目アパート自治会役員 今後の活動について
- ・ 10/11 栄町 5 丁目アパート自治会 健康体操体験会（約 13 名登録）
- ・ 12/ 5 市営江の島住宅自治会 認知症予防教室
- ・ 1/ 8 若葉町団地自治会 健康体操教室体験会（約 20 名ほどが登録）
- ・ 1/28 高砂会 健康体操教室体験会
- ・ 1/29 市営江ノ島住宅自治会 健康体操教室体験会（8 名ほどが登録）
- ・ 2/21 睦伸和会 健康体操教室体験会
- ・ 社協支えあいサロン立ち上げ 2 グループ



老人会での認知症予防講座

○取組みを進める上での課題

- ・住民に身近な自治会集会室などは腰や膝に弱い方でも参加しやすい。住民が参加するのに距離的に近い場所を確保する必要がある。
- ・自治会や老人会に加入していない「帰属組織のない高齢者」への告知などをどうしていくか、課題を感じる。組織に属している方々に比べ、情報量や活動に差があると思われる。この格差については翌年度に調査をして比較し対応を考えたい。

(3) 調査・広報活動

社会資源の調査・報告を兼ねて、栄町の自治会長へ依頼しヒアリングを実施した。

○実施状況

- 7/3 中砂自治会、7/5 第二団地自治会、7/31 南部自治会、8/23 江の島道東住宅自治会、8/31 南砂川自治会、9/5 日の出自治会、9/6 栄町 5 丁目アパート自治会、11/2 江の島自治会、11/6 市営江の島住宅自治会、11/6 南栄会自治会、11/18 新生寮自治会、11/21 親栄自治会、12/1 睦会自治会・・・計 13 自治会

○把握した共通的な課題等

- ・役員のなり手がいない
- ・脱会する住民がいる（役員を担わされる、メリットがない、イベントに参加しなくてはならない、集金をさせられる、などの理由）
- ・例年取組まれている防災訓練、健康フェア、町民運動会などと定例活動をこなすことに労力が割かれ、他の介護、環境衛生分野などの活動に着手する余力は少ないようにみえる
- ・組織を継続していくために、高齢者の役員免除、役員の1年交替などの負担軽減策をとるなどの工夫をされている自治会も複数あった

(4)その他

■栄町における四者懇談会(自治会長、民生委員、地域包括支援センター、社協)

民生委員活動（災害時に一人も見逃さない運動など）と自治会における防災活動の連動を図りたい。災害時要援護者への対応を考え、災害時の減災を目指す。自治会に所属していない世帯への対策等も検討する。また見守りのネットワークを強固にしていくきっかけとしたい。

両代表および定例会では了解を頂けたので、新年度に新自治会長と旧自治会長を交えて懇談会の開催をしたい。栄町を2地区に分けて開催する予定。

■助け合いのネットワークづくり

地域での支え合いについて、ちょっとした困りごとのお手伝いをする住民の名刺交換会に連携して広報などをお手伝いした（主催 高齢者の食と職を考えるチャンプルーの会）。参加者から「ボランティア」というほどではないが、ちょっとしたことは助け合いたいという意見も聞かれ、形態なども工夫しながら、継続的に取り組んで行きたい。

○日 時 平成20年3月8日(土)

○会 場 レストランサラ

○参加者 18名

■関連する行政各課へのヒアリング

行政として計画していることや住民と一緒に解決したいこと、ボランティアの育成などについて意見を伺った。

12/21 健康推進課、1/11 高齢福祉課、1/21 子育て推進課子ども家庭支援センター

2/22 防災課

■地域団体との協働事業

○「遺言と葬儀」

○日 時 平成20年3月1日(土)

○場 所 若葉会館

○参加者 住民5名

○主催者 グッドネイバー若葉(コーディネーターはプログラムと講師のコーディネート協力)

○「認知症を考える」(①認知症の予防について②高齢者の介護にいくらかかるか)

- 日 時 平成 20 年 3 月 15 日 (土)
- 場 所 さかえ会館
- 参 加 者 住民 45 名
- 主 催 者 栄町グッドネイバーをすすめる会との共催



自治会主催防災フェア
まち歩きの様子

○けやき台団地防災フェア

- 日 時 平成 20 年 3 月 16 日 (日)
- 場 所 けやき台団地
- 参 加 者 住民約 50 名
(コーディネートをした「まち歩き」と「救出訓練」は約 25 名の参加)
- 主 催 者 けやき台団地自治会
(コーディネーターは一部のプログラムと講師のコーディネート協力をした)

○地域福祉コーディネーターへの相談について

今年度より、栄町・若葉町をモデル地区として始まった地域福祉コーディネーターへは下記のような相談が寄せられた。相談件数は、ケース数ではなく、そのケースに対して活動をした回数で集計している。例えば、1 件の相談に対して 3 回の訪問があれば 3 件として集計している。

地域福祉コーディネーターは地域に拠点を置いて活動しているが、住民から持ちかけられる相談件数は比較的少なく、会合に参加したり、道で会ったついでに出された話題を「案件」として活動に繋げたりすることがほとんどである。また、市民にとって顔の见えない相手に相談を持ちかけるということは、心理的なハードルが高いということを痛感した。その意味で、コーディネーターの方から積極的に町へ出かけて関係を作り、「ちょっと聞いてみよう」と相談をしやすくすることが、介護予防や地域活動の意欲を上げる意味でも非常に重要であると感じている。

	連絡調整 ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発 ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究 ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4 月	1 件	11 件	0 件
5 月	1 件	14 件	0 件
6 月	7 件	11 件	3 件
7 月	13 件	6 件	7 件
8 月	22 件	4 件	4 件
9 月	16 件	5 件	5 件
10 月	9 件	5 件	2 件
11 月	7 件	7 件	7 件

12月	11件	6件	4件
1月	14件	6件	5件
2月	17件	6件	4件
3月	14件	4件	2件
合計	132件	85件	43件

	各種相談								
	見守り/ 介護	生計	住居	虐待	家事	市民学 習	子ども	ボラン ティア	その他
4月	1件	0件	0件	0件	0件	1件	2件	1件	2件
5月	2件	1件	0件	1件	0件	4件	1件	7件	3件
6月	5件	0件	0件	9件	0件	1件	0件	6件	3件
7月	2件	0件	0件	1件	1件	2件	2件	3件	4件
8月	3件	2件	0件	1件	1件	1件	1件	4件	3件
9月	9件	0件	0件	1件	0件	1件	4件	2件	5件
10月	2件	3件	0件	0件	1件	3件	0件	4件	6件
11月	6件	0件	0件	0件	0件	12件	0件	3件	4件
12月	2件	0件	0件	1件	0件	4件	0件	6件	1件
1月	0件	0件	0件	1件	1件	7件	1件	3件	1件
2月	3件	2件	0件	0件	1件	3件	0件	2件	3件
3月	2件	2件	0件	1件	2件	3件	2件	5件	2件
合計	37件	10件	0件	7件	7件	42件	13件	46件	37件

3. 4つの活動の柱

「運営委員会」 市民参画によるセンター運営

「協働」 「市民力と連携のまちづくり」を前進させる

「地域づくり」 地域の課題を地域で解決するしくみづくり

「活動支援」 人と人が参加し、つながりあう豊かな社会をつくる

市民参画の運営委員会によるセンター運営

(1) 運営委員会

市民によるセンター運営を進めていくため、センターのあるべき姿を探求しながら、事業の企画・推進・評価を市民による運営委員会で行った。2年で1期の運営委員会は平成19年6月に3期目となり委員の入れ替わりもあった。3つの専門委員会「あるべき市民参加推進委員会」「助成・広報委員会」「市民おもしろ大学委員会」は「課題解決実行委員会」「団体支援委員会」「事業推進委員会」に再編された。

委員会自身が具体的実践活動を展開しながら「市民活動とは何か」を捉えなおし、豊かにし続ける場となっている。

■運営委員

20名 (氏名/選出時区分)

運営委員長	宮本直樹/社会福祉協議会理事
副委員長	岩間直人/ボランティア団体
	安藤永一/企業
	石原康博/特定非営利活動法人団体
	泉澤あい子/市民
	井上隆一/関係行政機関
	江夏馨/ボランティア団体
	大村洋永/福祉団体
	岸野有里/特定非営利活動法人団体
	北澤明/ボランティア団体
	木村信一/市民
	甲野毅/特定非営利活動法人団体
	佐藤達夫/公募
	芝田達矢/立川市商工会議所
	利根川美海/企業

星野 恵子／民生委員
三 嶋 賢 一／公募
村 井 貴 代／ボランティア団体
山尾桂子 / 公募
山 家 利 子／特定非営利活動法人団体

※平成 19 年 6 月まで任期の委員

工 藤 啓／特定非営利活動法人団体
酒 井 克 哲／市民
佐藤みゆき／学識経験者
田 中 幹 子／特定非営利活動法人団体
降 矢 進／立川市自治会連合会

○運営委員会 開催回数：4 回

- ① 5/18(金) 平成 18 年度事業報告
次期委員会につないでいくことについて
- ② 7/ 5(木) 第三期運営委員自己紹介と委員長・副委員長の選出
今後の運営委員会の進め方について
- ③10/ 3(水) 上半期事業報告
専門委員会の柱立てについて
- ④ 3/ 3(月) 専門委員会活動報告
「やってみようか!市民活動 2008」最終確認
次年度事業計画案について

○あるべき市民参加推進委員会 開催回数:3 回

社会課題や寄せられる新たなニーズを捉え、運営委員会で取り組むべき具体的テーマを定める。

- ① 5/11(金) 商工会議所との協働事業について
- ② 8/ 8(水) 次期運営委員会へつなぐことの整理
- ③ 9/ 5(水) 取り組みテーマの検討

○助成広報委員会 開催回数:4 回

助成事業の審査及び要綱・ガイドラインの見直し、広報(ホームページ及び通信等)の検討を行う。

- ① 4/18(水) 平成 19 年度助成金(前期)審査会
平成 18 年度助成事業活動報告書の審査
- ② 6/12(火) 助成事業の要綱及びガイドラインの見直し
助成金活動報告会について
- ③ 8/ 2(木) 助成広報委員会のこれまでの経過と今後について
- ④ 9/19(水) 平成 19 年度助成金(後期)審査会

○市民おもしろ大学委員会 開催回数:5回

『市民おもしろ大学』を運営スタッフとともに企画、実施した。

- ① 4/19(木) 第12回市民おもしろ大学に向けて
第13回市民おもしろ大学に向けて
- ② 5/30(水) 第12回市民おもしろ大学の振り返り
第13回市民おもしろ大学に向けて
- ③ 7/20(金) 第13回市民おもしろ大学に向けて
第14回市民おもしろ大学に向けて
- ④ 9/4(火) 第13回市民おもしろ大学の振り返り
第14回市民おもしろ大学に向けて
第15回市民おもしろ大学に向けて
- ⑤ 10/16(火) 第14回市民おもしろ大学に向けて
第15回市民おもしろ大学に向けて

○課題解決実行委員会 開催回数:5回

センター開設から積み上げてきた相談や事業実績を分析し、解決すべきことは実行する。

- ① 11/6(火) 委員会で取り組むべき事項と方法について
- ② 11/29(木) 事業報告からの分析・検討
今の委員会で取り組むことの整理
- ③ 1/9(水) 今後の委員会で取り組むことの整理
平成19年度事業報告構成について
- ④ 2/13(水) らくだ銀行システム案について
「立川のまちと住民特性」についてのグループワーク
- ⑤ 3/25(火) 平成19年度事業報告構成について

○団体支援委員会 開催回数:5回

助成事業や団体の広報支援(ホームページ及び通信等)だけではなく、寄附の仕組みづくりなど多様な団体支援の手法について検討を行なう。

- ① 11/13(火) 団体支援委員会の目的と取り組む課題や手法について
助成事業について
- ② 12/13(木) 助成金活動報告会について
組織力パワーアップ講座について
- ③ 1/25(火) センター助成事業申請団体との意見交換会
助成事業の課題分析
組織力パワーアップ講座について
- ④ 2/19(火) 助成金活動報告会について
平成20年度助成事業について
- ⑤ 3/27(木) 助成金活動報告会の振り返り

組織力パワーアップ講座の振り返り
委員会での今後の検討課題とスケジュールについて

○事業推進委員会 開催回数:4回

市民活動たちかわ祭りや団塊世代への地域活動推進、商工会議所など協力団体との企画検討、実施した。

- ① 11/21(水) 委員会の取り組み事項について
- ② 12/21(金) 市民活動たちかわ2008(仮)について
第15回市民おもしろ大学に向けて
- ③ 2/4(金) 「行ってみようか!聞いてみようか!やってみようか!」市民活動2008について
- ④ 2/29(金) 「行ってみようか!聞いてみようか!やってみようか!」市民活動2008の振り返り

協働

(1)協働の仕組みづくりと市民自治推進活動への支援

■たちかわ協働みらい会議への支援

平成17年度から21年度を計画期間とする「立川市第3次長期総合計画第2次基本計画」策定に向けて、市民の声を計画に反映させることを目的に公募市民43名により構成された「立川市第3次長期総合計画第2次基本計画策定市民会議（愛称：たちかわみらい計画会議）の進行と市民会議での提言のとりまとめを平成15年度、16年度で担ってきた。

計画は17年6月に「市民力と連携のまちづくり」をテーマに完成した。

その後、市民会議の有志で「たちかわ協働みらい会議」が発足され、協働の指針づくりへの協力、自治基本条例市民研究会の発足、基本計画進捗状況の確認、行政事務事業評価への協力、第三次基本計画策定に向けた政策提言など行われた。

センターでは、引き続き、立川市で真の「市民自治」を根付かせるため、市民の自発的活動の支援を行ってきた。

○たちかわ協働みらい会議の実施支援

- ①10/26(金) 第2次基本計画の進捗状況について
- ②12/10(月) 第3次基本計画策定に向けての政策提言について
- ③ 1/10(木) 第3次基本計画策定に向けての政策提言について
- ④ 2/22(金) 第3次基本計画策定に向けての政策提言について

■自治基本条例市民研究会への支援

市民自治を広げるいち手段として自治基本条例を立川で作ることができないだろうかと関心を持つ市民が集まり、学習しながら検討を進めている。センターでは、市民の自発的活動の後方支援や行政との協働の機会づくりを担っていく。

- ① 4/26(木) 立川市財務部長を招いての学習会
- ② 6/27(水) 立川市経営改革担当部長を招いての学習会
- ③ 8/20(月) 立川市総合政策部長を招いての学習会

(2) たまがわ・みらいパーク企画運営委員会への支援

■ たまがわ・みらいパーク企画運営委員会への支援

平成 16 年 4 月に廃校となった旧立川市立多摩川小学校について、市民の声を反映した跡地の活用方法の実現を目的に発足した市民委員会が平成 18 年 1 月、市長に提言を提出した。

平成 18 年 4 月からは委員 17 名(前委員会からの推薦 3 名、公募委員 6 名、夢育て・たちかわ子ども 21 プランからの推薦 3 名、行政職員 5 名)から成る旧立川市立多摩川小学校運営協議会が発足し、市民活動センターは、基本コンセプトの具現化や市民と行政との新しい協働型の運営、運営体制、施設・設備管理・プログラム実施に関するルールをまとめていくための支援を担った。

平成 19 年度からは、これまで関わってきた市民に加え公募の市民や自治会などの地域住民が加わった市民活動団体「たまがわ・みらいパーク企画運営委員会」が発足。新たに発足した団体が行政と協働しながら施設を運営していくための支援などの側面的な支援を行なった。

○ たまがわ・みらいパーク企画運営委員会への実施支援

- ① 7/26(木) みらいパーク施設入退館の管理方法について
- ② 8/ 9(木) 施設利用の申請手順について
- ③ 8/23(木) 直営プログラムの報告及び今後の行事予定について
- ④ 9/13(木) 施設内動線について/運営事務室の機器使用について
- ⑤ 9/27(木) 公募プログラムについて/地元との懇談会について
- ⑥ 10/11(木) みらいパークまつりについて
- ⑦ 10/25(木) みらいパークまつりについて
- ⑧ 11/ 8(木) みらいパーク施設視察及び説明会について
- ⑨ 11/22(木) みらいパークまつり最終確認
- ⑩ 1/10(木) 平成 20 年度事業計画について/事務スタッフの雇用について
- ⑪ 1/24(木) 平成 20 年度事業計画及び予算について/平成 20 年度役員体制について
- ⑫ 2/14(木) 平成 19 年度事業報告書について/年度末総会について
- ⑬ 2/28(木) 企画運営委員会の組織体制見直しについて
- ⑭ 3/13(木) フリー談話室のプログラム実施について/スタッフ育成プログラムについて

(3) 市民活動団体との協働事業の実施や地域イベントへの参画

■ ふれあいミュージックフェスティバル 2007

東京ガス(株)多摩支店、国立音楽大学との協働により平成 19 年で第 15 回目の開催を迎えた。

この催しは障害のある方や、日頃クラシックコンサートに接しにくい方でも安心して参加できる取り組みとして開催している。多くのボランティアにも協力いただき、車椅子・ストレッチャーを使用されている方の会場誘導なども行っている。

例年楽しみにしてくださる市民が多く、感想文の数も当日の募金額も多いことから、満足度も高いと思われる。また市内福祉施設で、当日の来場が難しい方へ国立音楽大学学生による出張コンサートを実施し好評を得た。

- 開催日 平成 19 年 12 月 16 日(日)
- 会場 国立音楽大学講堂・大ホール

- 内 容 「魅惑のオペラ名場面集」「華麗なブラス・サウンドの世界」
- 来 場 者 1,100名
- 入 場 料 無 料
- ボランティア 33名
- プレコンサート
 - ① 9/16(日) / 介護老人保健施設わかば / フルート独奏
 - ② 9/30(日) / 介護老人福祉施設フェローホームズ / 声楽・ピアノ
 - ③ 10/14(日) / ケアハウスあおやぎ苑立川 / 金管五重奏
 - ④ 10/28(日) / 介護老人保健施設国立あおやぎ苑立川 / 金管五重奏
 - ⑤ 11/10(土) / 介護老人福祉施設至誠キートスホーム / ピアノ連弾
 - ⑥ 11/18(日) / 介護老人保健施設スターホーム / 声楽・ピアノ
- 特別協賛 東京ガス株式会社 多摩支店
- 後 援 立川市 国立音楽大学 (財)立川市地域文化振興財団

■企業のCSR活動や社員研修への協力

企業から寄せられる「寄附がしたい」「CSR(企業の社会的責任)活動がしたい」「社会貢献できる人材育成プログラムを実施したい」といったご相談にのり、実施のための支援を行った。

○株ニッセン社会貢献活動への協力

- 内 容
 - ① 楽市イベント企画「世界ふれあい祭」で来場者に着物を貸与し着付ける。
※雨天のため中止となった
 - ② 成人式で着物を着るのが困難だった障害のある方へ、着付けから写真撮影までをプレゼントする企業の社会貢献活動について、参加者募集広報や社員説明会の協力をを行った。
- 日 時
 - ① 平成19年10月10日(土)
 - ② 平成20年3月29日(土)
- 参 加 者 ② 19名

○CSR活動のご相談

- ・ (株)フレックス / 地域交流事業企画について
- ・ JT(日本たばこ産業株式会社) / CSR活動の展開方法について
- ・ ジョブサポートパワー(株) / CSR活動の展開方法について
- ・ ジャパン・エントリー・リレーションズ(株) / 就労支援について

○社員研修について

- ・ 全日産・一般業種労働組合連合会
 - 内 容 障害のある人への理解を深める
 - 日 時 平成20年2月6日(水)
 - 参 加 者 24名

■その他の協働事業

地域団体やNPOと活動分野を超えて結びつき、まちづくりの協働者として共に事業を進めた。協働を通して、団体の財源確保の場を確保したり、次の活動展開を探るなどした。

○商工会議所との「市民参加のまちづくり」企画

- 目的 商工会議所と市民参加プログラムを開催し、まちづくりの推進や団塊世代への活動参加のきっかけとする。
- 日時 平成19年4月29日(日・祝) たちかわ散策ウォーキング
平成19年11月10日(土) たちかわ散策ウォーキング
平成20年1月23日(水)～3月26日(水) 平成19年度まちの案内人養成講座
平成20年3月30日(日) 春うらら桜ウォーキング

○迷惑駐輪クリーンキャンペーン

- 目的 立川駅近くの小学校のうち総合的な学習の時間などで障害のある人との交流をした学校に広報し、実際の活動の場とした。
- 日時 平成19年10月22日(月)
- 参加者 第三小学校・第七小学校の生徒30名

○秋の楽市

- 目的 地域コミュニティーの確立や市民活動団体のPRや財源確保の一環
- 日時 平成19年11月10日(土)・11日(日)
- 場所 国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン
- 参加団体 市民活動センターたちかわ登録団体及び立川市社会福祉協議会団体会員22団体

○第26回立川・昭島マラソン大会

- 目的 参加団体のPRと財源確保の支援
- 日時 平成20年3月8日(日)
- 参加団体 6団体

■関係機関が主催する委員会等へのセンタースタッフの参加

関係団体や行政機関などが主催する各種委員会、研究会等にセンタースタッフ自身が参画することで、新たなニーズや情報をつかんだり、ネットワーク作りをする機会とした。

- 立川市まちづくり政策協働研究会
- 「楽市」企画運営委員会
- 立川市地域ケア会議
- 立川市地域包括支援センター介護予防業務連絡会
- 立川市防災モデル地区推進事業
- 地域若者サポーターズ会議

- 共同作業所マーキー運営委員会
- 福祉ホットライン検討委員会
- 立川市民生・児童委員協議会会長会及び定例地区民協
- 立川高校定時制課程学校運営連絡評議会
- 砂川高校定時制課程学校運営連絡協議会
- 砂川高校通信制課程学校運営連絡協議会
- 日本青年奉仕協会 地域における高校生の奉仕活動の実施に関する調査研究事業
- 地域教育推進ネットワーク東京都協議会
- 都立高校教育支援コーディネーター事業検討委員会
- 全国社会福祉協議会 ボランティア・市民活動実践研究会
- 東京ボランティア・市民活動センター センター長会議
- 東京ボランティア・市民活動センター 事務局連絡会議
- 北多摩西部ブロックボランティア担当者会議
- 東京ボランティア・市民活動センター運営委員会
- 東京ボランティア・市民活動センター研修企画委員会
- 認知症支援拠点モデル事業推進委員会

■センタースタッフによる講師等の派遣

関係団体が実施する講座、講演会などにスタッフを派遣し、協働した。

- 能登半島地震災害における輪島市災害ボランティアセンター門前支援（4/30～5/6）
- 新潟県中越沖地震災害における柏崎市災害ボランティアセンター支援（8/3～8/8）
- ユニバーサルボランティア東京学習会（高齢者にかかわるボランティア活動）
- グループホームやわらぎ西立川運営推進会議
- 立川市南部西エリア小地域ケア会議（地域力を高める「災害とケアマネージャー」）
- 立川市防災フォーラムパネラー（市民活動センターたちかわの取組みと役割）
- 立川市シルバー大学福祉講座（ボランティア活動について）
- 立川市生涯学習市民講師人材研修（立川市の福祉とボランティアについて）
- 区市町村 NPO 担当職員連絡会議(中間支援センターの現状と課題について)
- 東京都教育庁 都立高校教育支援コーディネーター活用研修（市民活動センターたちかわの取組みについて）
- あしたの日本を創る協会講演会運営

地域づくり

(1)第2次立川あいあいプラン21推進評価委員会・作業部会の運営

■地域福祉推進評価委員会の運営

市民参画により「第2次立川あいあいプラン21推進評価委員会」を設置し、「第2次立川あいあいプラン21」全体の推進と「地域福祉コーディネーター」配置による活動の評価方法についても検討し、それを元に評価も進めてきた。

※地域福祉コーディネーターの年間活動報告については、P20-21に記載。

回数	日時・会場	人数	主な協議内容
1	平成19年7月14日(火) 総合福祉センター視聴覚室	14名	第2次立川あいあいプラン21推進評価報告 地域福祉コーディネーター活動報告 地域福祉コーディネーター配置事業支援部会について
2	平成19年10月11日(木) 総合福祉センター	12名	地域福祉コーディネーター活動状況 社協第2次立川あいあいプラン21推進状況と評価報告書
3	平成19年12月12日(水) 総合福祉センター第2活動室	12名	地域福祉コーディネーターの活動報告について 社協第2次立川あいあいプラン21の評価について
4	平成20年3月11日(火) 総合福祉センター第2活動室	10名	社協第2次立川あいあいプラン21進捗状況の評価について

■地域福祉コーディネーター配置事業支援部会の開催

コーディネーターが事業計画達成のために行なう活動並びに各種団体等と連携、協働して実施する活動に対する助言、支援とコーディネーターの活動に対する評価のため実施

回数	日時・会場・出席者数	人数	主な協議内容
1	平成19年8月3日(金) 総合福祉センターボランティアルーム	8名	地域福祉コーディネーターの活動に対する助言、提言など
2	平成19年9月7日(金) 総合福祉センターボランティアルーム	8名	地域福祉コーディネーター活動日報を元に、企画の検討
3	平成19年11月13日(火) 総合福祉センターボランティアルーム	8名	防災！帰宅困難者図上体験訓練報告 シンポジウム『栄町の地域猫を考える』の報告について

■町単位での取り組み

○栄町(他団体との共催事業を含む)

	日時・会場・参加者数	主な協議内容
1	平成19年10月13日(土) 13:30~17:00 幸学習館 住民23名・スタッフ14名	「防災!帰宅困難者図上体験訓練」
2	平成19年11月3日(土) 13:30~16:30 さかえ会館 住民34名 スタッフ8名	「栄町の地域猫を考える」
3	平成20年3月15日(土) 13:30~16:00 さかえ会館 住民45名 スタッフ7名	「認知症を考える」 (①認知症の予防について ②高齢者の介護にいくらかかるか)
4	平成20年3月16日(日) 10:00~17:00 団地住民約25名	「けやき台団地防災訓練」 (コーディネート)

○西砂町・一番町

	日時・会場・参加者数	主な協議内容
1	平成19年4月19日(木) 天王橋会館 参加者6名	防災まち歩き下見
2	平成19年4月25日(水) 西砂公民館 参加者6名	防災まち歩き打合せ
3	平成19年5月9日(水) 一番福祉作業所 参加者6名	防災まち歩き下見
4	平成19年5月20日(日) 天王橋会館 参加者43名	防災まち歩き
5	平成19年6月13日(水) 一番福祉作業所 参加者3名	地域懇談会開催の打合せ
6	平成19年7月11日(水) 西砂公民館 参加者9名	第9回地域懇談会 今後の地域活動について
7	平成19年8月7日(火) 一番福祉作業所 参加者6名	今後の活動について
8	平成19年9月4日(火) 西砂公民館 参加者4名	防災まち歩き打合せ
9	平成19年10月20日(土) 西砂会館 参加者8名	防災まち歩き下見
10	平成19年10月28日(日) 西砂会館 参加者38名	防災まち歩き
11	平成19年10月30日(火) 天王橋会館 参加者2名	今後の活動の進め方について

12	平成 19 年 11 月 20 日(火) 西砂学習館 参加者 7 名	今後の活動の進め方について
13	平成 19 年 11 月 28 日(水) 一番福社会館 参加者 30 名	一番町東団地老人会 地域支えあい活動について
14	平成 19 年 12 月 11 日(木) 西砂学習館 参加者 6 名	今後の活動の進め方について
15	平成 20 年 1 月 16 日(水) 西砂学習館 参加者 7 名	西砂・一番市民活動ネットワークの発足 について
16	平成 20 年 2 月 20 日(水) 西砂学習館 参加者 7 名	西砂・一番市民活動ネットワークの発足 について
17	平成 20 年 3 月 18 日(火) 西砂学習館 参加者 5 名	西砂・一番市民活動ネットワークの発足 について

○幸町

	日時・会場	主な協議内容
1	第 8 回 平成 20 年 2 月 2 日(土) 幸町団地周辺 参加者 36 名	「幸町団地防災まち歩き」 講師：矢野和孝氏（災害ボランティア）

■グッドネイバー推進団体支援

市民が地域の中で、共に学び、参加し、支え合うまちづくりをすすめる目的で、市内 4 地区（若葉町、柴崎町、西砂町・一番町、栄町）にグッドネイバー運動推進団体を指定し、活動費の助成や情報交換を行った。また、平成 16 年に行なった本会の地域福祉市民活動計画及び立川市行政の地域福祉計画の策定時は、この 4 地区で地域懇談会を開催し、計画に反映させた。

17 年度は策定された計画の内容について 4 地区で説明会を開いた。19 年度は栄町と若葉町を対象に地域福祉コーディネーターが配置され、特に栄町から先に、グッドネイバーの多大な協力を得ながら地域活動を展開した。20 年度は若葉町でも協力を仰ぎたい。西砂町・一番町では料理教室の男性グループ立ち上げ支援など新たな地域住民をつなぐ役割を果たしつつある。また柴崎町では子どもの居場所作りが 2 年目に入り、ボランティアの養成コーディネーターなどの機能も果たしている。本センターとしては、地域での協議の場を作り出すような役割を引き続き果たしていくことも期待している。

他の地域でもグッドネイバーが立ち上がらないか、というご意見をよく頂戴するが、地域によっては屋上屋を重ねるような組織活動は敬遠される傾向もある。20 年度はあいあいプラン 21 の計画見直しの年である。地域福祉活動の進め方も含めてどういう活動形態が現代の地域に有効なのかを研究する余地がある。

■支えあいサロンの推進

市民の孤立を防ぎ、身近な地域の中で緩やかなつながりを継続できる場として、隣近所単位のたまり場活動である「支えあいサロン」の運営を支援している。

登録グループは、子育て中の人が多く集うサロンと、高齢者中心のサロンとに分けることができる。高齢者のサロンは、担い手である世話人が少なく、登録が伸び悩んでいる。だが、開催されているサロンの中には、防災活動やサロン開催時以外の時間帯での見守り活動につなげる取り組みをしているところもあり、地域への波及効果の高さを改めて認識できた。高齢社会において重要な取り組みの一つであるので、世話人の育成に力を注ぐ必要がある。

また、より開かれた公益性の高い場を多く作るために要綱の改正も行った。次年度は制度や活動グループの情報を市民に知らせる仕組みも整えたい。

登録サロン数 36ヶ所 (子)は子育て中心のサロン、(高)は高齢者中心のサロン、無印はその他
 /町名は主な活動拠点もしくは、代表者住所所在地を指す

サロン名	活動内容
けやきサロン(高)/若葉町	一人暮らしの高齢者の話し相手、相談。食事会、講習会等
ミニデイサービス ひめりんご(高) /若葉町	ミニデイサービス
あすなる会/富士見町	地域の方と知的障害者作業所とのゲートボールを通しての交流
ふらっと(高)/若葉町	体操、語り、歌、お茶飲み会
サラおしゃべり会(高)/若葉町	お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、企画を開催
若葉町ボランティアグループ(高) /若葉町	ミニデイホーム
福祉あすなる会(高)/富士見町	散歩及び切手整理など
はぐはぐ(子)/幸町	みんなで子育てについて話す会
ダイエットクラブ/富士見町	スポーツ一般。季節行事は広く声をかけ、地域の支えあいをすすめる。子育て中の人にも参加しやすくして、子育て支援の一環とする。
いろりばた(高)/栄町	お茶飲み会。週代わりで昼食会、語らい、カラオケ、囲碁、ビデオ鑑賞、手芸
のんびりあそぼ(子)/柴崎町	親子でのんびり自由に遊ぶ。読み聞かせ等。土曜の午後は、お茶会、クラフト教室、おやつ作りなど
ポニー(子)/高松町 若葉町	子育て中の親同士の交流。それぞれのメンバーの企画による学習会、季節ごとの会（お花見、クリスマス会など）

親子で学ぶサークル『ハーモニー』 (子)／高松町 幸町 柴崎町	読み聞かせ、歌、自由遊び、講師を交えた「わらべ歌」 講習、遠足など
マロンキッズ(子)／高松町 砂川町	多胎児、親のサークル
ドリームエンジェル(子)／富士見町	母と子の集い
はなみずき(高)／幸町	お茶飲み会
スキップママ(子)／富士見町	体操、料理、クラフト、子育て講座開催など
子育てママテニスサークル(子) ／砂川町	子育て中の親子でのテニスやお食事会、読み聞かせな ど)
ありんこ kid's(子)／西砂町	絵本の読み聞かせ、工作、歌など(20年1月解散)
もん☆きつき(子)／錦町	季節の行事、育児勉強会、お誕生日会
パドマ(子)／富士見町	全世代を対象とし、ヨガ、情報交換
ひよことありのルンルンクラブ(子) ／富士見町	子どものふれあい、情報交換(20年2月解散)
さわさわ(子)／曙町	ランチタイム交流、ボールエクササイズ、ベビーマッ サージなど
『マシュマロ』編集グループ(子) ／柴崎町	ミニコミ誌『マシュマロ』の作成に向けての話し合い や情報交換など
子育てサークル High Pine(子) ／高松町	お茶会や食事会など
でこぼこキッズ(子)／富士見町	子育てサークル
にきにき(子)／富士見町	情報発信、親睦会、手芸、料理、親子遊びなど
テニスサークルمامママム(子)／錦町	お茶のみ会
ざわざわ(子)／曙町	バランスボールなど
チーム若葉(子)／若葉町	ヨガ
けやきクラブ(高)／若葉町	健康麻雀
ママの杜午後2時の会(子)／砂川町	バランスボールなど
さゆりの会(高)／幸町	ストレッチ体操
MG会(高)／若葉町	健康麻雀
いきいきサロン／栄町	健康体操
たんぼぼの会／泉町	太極拳、お茶会

(2)小中学校を核とした市民学習支援

市内の小中高校から依頼を受けて、総合的な学習の時間や一般科目の中で福祉教育、市民学習に関する、学校と市民のコーディネートをした。この取り組みは地域の支援者であるセンター職員や特定非営利活動法人自立生活センター立川、障害当事者、子育て中の人、地域の高齢者、市民活動団体の活動者、商店街店主、行政職員などと、関わる市民も増加する中、協働して進めてきた。

数年来の取り組みの中での肯定的な変化として、地域の支援者が着実に力をつけている。それは生徒たちとのやり取りが上達したということに留まらず、学校との打合せにおいてプログラムを協働で作成する力や、コーディネートをする力もついてきているということである。プログラムの内容についても学校の実情に合わせて臨機応変に作成してきたため、経験が蓄積されている。また、学校におけるプログラム実施の中で、地域の課題にも触れることが多くある。と同時に、学校の抱える悩みは地域の状況を反映しているともいえる。学校での取り組みは、地域の教育力を高める機会でもあると捉え、単にプログラム提供に留まらず住民を視野に入れて活動をしてきた。今後は、立川市社会福祉協議会の使命「住民主体による福祉コミュニティづくり」を推進していくため、地域の支援者が主体となる市民学習支援のコーディネートを展開していく。

■学校への学習支援や出前講座の実施(相談のみも含む)

学校と学年	開催開始月	プログラム作成協力	協力者のコーディネーター	プログラムの分野 又は紹介した講師や協力者	機材貸し出し協力	職員派遣回数
二小 4年	2月	○	8名	車椅子使用者・視覚障害のある人との交流	車椅子	4
三小 3年	10-11月	○	5名	視覚障害のある方・聴覚障害のある方・車椅子使用者との交流	無	3
四小 4年	10月	○	3名	総合福祉センターの見学	無	5
4年	11-12月	○	4名	視覚障害のある人との交流	アイマスク	9
五小 1年	10月	○	5名	車椅子使用者・視覚障害のある人との交流	車椅子	2
2年	9月	○	4名	車椅子使用者・視覚障害のある人との交流	無	2
3年	10月	○	5名	視覚障害のある方・聴覚障害のある方・車椅子使用者との交流	車椅子	2
六小 3年	1-2月	○	3名	視覚障害のある人との交流	無	6
5年	2月			視覚障害のある人・車椅子使用者との交流	無	1
七小 3年	9-12月	○	5名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子・アイマスク	7
4年	9-12月	○	5名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子・アイマスク	6
八小 3年	11-12月	○	7名	視覚障害のある人・車椅子使用者・高齢者との交流	無	4
新生小 4年	11-12月	○	5名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子・アイマスク	5
5年	11-12月	○	5名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子・アイマスク	5
6年	11-12月	○	5名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子・アイマスク	4
大山小 3年	2月	○	2名	昔の遊びと農への理解	無	1
上砂川小 3年	12月		1名	車椅子使用者との交流	無	0
上砂川小 4年	9月	○	3名	視覚障害のある人との交流	点字板	2

西砂小 3年	12月			総合学習の取り組み方について	無	0
4年	11-12月	○	3名	視覚障害のある人との交流	点字板	5
一中 2年	5-6月	○	2名	視覚障害のある人との交流・高齢者についての学習	無	4
二中 2年	11-2月	○	3団体	動物愛護と地域活動	無	4
			3名	外国の方との交流	無	5
			1団体	車椅子使用者との交流	車椅子	5
			1名	聴覚障害のある方との交流	無	5
			3名	視覚障害のある人との交流	アイマスク	6
三中 2年	12-1月	○	5名	視覚障害のある人・車椅子使用者との交流・高齢者についての学習	車椅子・アイマスク	7
七中 2年	10月	○	6名	視覚障害のある人・車椅子使用者との交流	無	5
九中 2年	10月			ボランティアに関する調査	無	1
北多摩高 1-A	2月	○	1名	視覚障害のある人の講演	無	2
1-B	2月		1名	車椅子使用者の講演	無	1
1-C	2月		1名	精神障害者支援機関ナビの当事者によるワークショップ		2
1-D	2月		8名	精神障害の方によるワークショップ	無	2
1-E	2月		1名	助産士の方の講演	無	1
1-F	2月		1名	視覚障害のある人の講演		2
1-G	2月		1名	障害のあるお子さんをもつ親による講演		2
1-H	2月		1名	車椅子使用者の講演		2
立川高校 定時性課程	12月		2名	お金に関する講演会（特定非営利活動法人「育て上げ」ネット）	無	2

■立川市教員研修への協力

立川市教育委員会が主催する福祉教育をテーマにした参加型・体験型学習の研修に協力した。平成12年から地域の障害のある方々に協力をいただきながら実施してきたが、実施方法も定着してきたことから、授業への協力者を多数コーディネートしている特定非営利活動法人自立生活センター・立川が主となり立川市教育委員会に協力して進めていくことの支援を当センターの目的とした。

- 日 時 平成19年8月6日(月) 9:30～16:00
- 場 所 総合福祉センター 視聴覚室
- 参加者 立川市および近隣市の教員12人
- 内 容 「福祉」や「地域」をテーマに体験型学習のプログラム作りのワークショップ
- 共 催 立川市教育委員会
- 協 力 特定非営利活動法人自立生活センター・立川 障害当事者10名市内の教員1名

(3)都立高校の奉仕体験活動の支援

都立高校において、平成19年度から奉仕体験活動が導入された。市民活動センターたちかわは、東京都教育庁より教育支援コーディネーターの委託を受け、市内の3校(5課程)に対して、具体的なプログラム作成の協力や社会資源の情報提供を行ってきた。また、各校の取り組み内容などを

共有したり、課題などを検討したりする場として奉仕学校連絡会を開催した。

課題は、広く地元の自治会や市民活動団体と協力をしてプログラムを開発するための「人財」確保と高校生が楽しみながら積極的に関わることのできるプログラムづくりである。これについては、他地域の情報収集やその学校の実情に合わせた工夫をしていく。

○各校での取組みについて

学校名（課程）と実施学年	取組み内容と協力団体
立川高校（全日制） 1年生 320名	中学生向け部活動体験 保育体験（立川市羽衣児童館） 環境保全活動（玉川上水の自然保護を考える会） 高齢者へのパソコン指導補助（たちかわパソコン倶楽部）
立川高校（定時制） 3年生約 70名	傾聴トレーニング（特定非営利活動法人ライブリー） 聞き書き活動（日本聞き書きボランティア協議会・多摩） ミニ講演会（地域の歴史などに詳しい市民、同校卒業生）
北多摩高校（全日制） 1年生 320名	立川花火大会翌日の清掃活動（立川商工会議所） 歴史資料を作ろう（日本聞き書きボランティア協議会・多摩） 保育体験（愛光あけぼの保育園） 国際交流（社団法人 Save The children） （カナダ大使館） 昭和記念公園清掃活動（立川商工会議所） 循環型社会を考える（『キャップの貯金箱』推進ネットワーク） 20才になったら選挙に行こう（立川市選挙管理委員会） 小学校児童の遊び相手・お手伝い（立川5小・南砂小） 多文化主義学習（カナダ大使館訪問） 昭和記念公園落ち葉集め隊（昭和記念公園）
砂川高校（単位制普通科） 2年生 139名	防災マップづくり 環境保全活動（玉川上水の自然を考える会） 小学校での活動（立川第十小学校） 駅前街頭募金活動（財団法人日本ユニセフ協会） リサイクル活動（財団法人ジョイセフ） 高齢者との交流（至誠キートスホーム） 保育体験（中砂保育園、子育てサークル スキップママ） 障害のある人との交流 （市内在住の車椅子使用者、市内在住の視覚障害者）
砂川高校（通信制） 全学年 20名	「職業」についての講演会 （イラストレーター、介助ヘルパー、ストリートミュージシャン、健康体操指導士） 環境保全活動（環境保全、食育に詳しい市民）

○市内都立校連絡会の開催

- 開催日 平成 20 年 2 月 13 日(水)
- 会 場 立川高校
- 参加者 12 名
- 内 容 ・平成 19 年度の各校の取組みについての情報交換
・課題と平成 20 年度に向けての工夫

活動支援

(1) ボランティア情報提供希望者および登録グループとの連携

【ボランティア情報希望者】

ボランティア情報提供希望者には、個別に対応し、希望に合わせて具体的な情報を引き出し、活動につなげることを努めている。

【登録グループ】

主に立川を拠点として活動している特定非営利活動法人やボランティアグループなど、市民活動団体の登録制度を設け情報交換を密にすることで連携を深めた。また、市民活動団体の活きた情報を広く市民に公開するため、ホームページの開設・運営や「市民活動センター★たちかわ通信」の発行、『登録グループ紹介 BOOK』の作成を行なった。この他にも、助成事業や機材の貸出し、団体向け講座の開催なども行い市民活動団体のそれぞれの活動がより充実するための連携を図っている。また、共通課題をテーマに団体連絡会を 2 回実施した。

- 登録グループ 121 グループ (7,520 名)
 - ・障害のある人や高齢者、医療に関するグループ 38 グループ
 - ・子どもや子育てに関するグループ 22 グループ
 - ・環境に関するグループ 8 グループ
 - ・文化・スポーツに関するグループ 20 グループ
 - ・多文化共生に関するグループ 4 グループ
 - ・地域づくり・まちづくりに関するグループ 18 グループ
 - ・いろいろな相談事業に関するグループ 11 グループ

【団体連絡会】

○「悩み解消のための」市民活動団体連絡会

- 開催日 平成 19 年 7 月 31 日(火)
- 会 場 女性総合センター・アイム 第 3 学習室
- 参加団体 16 団体 特定非営利活動法人 SPORTS・ACT/特定非営利活動法人自立生活センター・立川/立川市手をつなぐ親の会スマイルくらぶ/特定非営利活動法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会/チャイルドラインたちかわ/特定非営利活動法人「育て上げ」ネット/特定非営利活動法人より良い住宅環境作りを支援する会/特定非営利活動法人市民活動サポートセンター・アンティ多摩/柴崎町地区グッドネイバー推進協議会/ホリデースクールわかばボランティアコーディネーター若葉小部会/学ボラの会/ボランティアグループ木苺/キネマ立川/立川親と子のよい映画をみる

会/立川マザーズ/子育ていれかわりたちかわり

○出された課題

活動場所がない/人手不足/団体内のメンバー間の意識差/広報がうまくいかない
活動資金不足/サービス利用者の困難な状況/教育機関との付き合い方に課題あり

○「地域情報化計画 意見交換のための」市民活動団体連絡会

○開催日 平成19年9月26日(水)

○会場 市民会館 第1会議室

○参加団体 9 団体 たちかわパソコン倶楽部/チャイルドラインたちかわ/たちかわ多文化共生センター/ラッキークローバー/しらゆり/「育て上げ」ネット/自立生活センター・立川/立川商工会議所/市民活動センターたちかわ運営委員会

○内容 行政の地域情報化計画についての意見交換

地域情報化に期待すること/情報の内容・伝達手段について/個人情報保護について/市民参加について

(2)市民おもしろ大学の開催

多様な生き方、価値観をもつ魅力的な立川市民を講師に招き、共に学び、交流することが「市民文化」を広める第一歩の機会と捉え実施している。

平成17年度から公募市民が運営に携わっている。参加しやすい環境づくりが今後の課題である。

○第12回市民おもしろ大学

○開催日 平成19年5月12日(土)

○会場 立川防災館・ハイパーレスキュー隊訓練所

○参加者 33名

○テーマ 「大人の社会科見学 第1弾 あなたの備えは万全ですか?
～身を持って体験、防災度チェック!!～」

○講師 立川防災館職員・ハイパーレスキュー隊員

○第13回市民おもしろ大学

○開催日 平成19年8月4日(土)

○会場 昭和第一学園高等学校

○参加者 52名

○テーマ 「大人の社会科見学 第2弾 爆走われらのソーラーカー」

○講師 昭和第一学園高等学校自動車研究部

○第14回市民おもしろ大学

○開催日 平成19年11月17日(土)

○会場 玉川上水

○参加者 25名

○テーマ 「大人の社会科見学 第3弾 玉川上水^{いちり}一里の旅」

○講師 柴 俊男氏

○第 15 回市民おもしろ大学

- 開催日 平成 20 年 3 月 8 日(土)
- 会場 立川市総合福祉センター2 階視聴覚室
- 参加者 35 名
- テーマ 「ヒマラヤ・すばらしき教室」
- 講師 高橋清輝氏

(3)市民活動体験プログラム

■夏！体験ボランティア 2007

夏休み期間を中心に、市民のボランティア活動のきっかけづくりを目的に市内の福祉施設や市民活動団体と連携をとりながら実施した。

福祉分野以外の団体からも体験プログラムの提供をいただくに至っている。

参加者の傾向として、高校生の参加者が全体の 40%、中学生が 24%と多く、次いで大学生が 20%を占めた。社会人の方が増加したが、団塊世代が参加できるプログラム提供を課題としたい。

- 開催時期 7 月～8 月を中心とした夏期
- 活動メニュー 市内の受入れ施設・団体等 77 団体 121 プログラム
- 参加者 128 名

(4)市民活動 2008 の実施

これからボランティア活動・市民活動を始めようという方が、気軽に参加でき、市民活動団体の報告や活動紹介、講演などを通じて、いろいろな情報が得られるイベントとして開催した。

- 開催日 平成 20 年 3 月 8 日(土)
- 会場 立川市総合福祉センター2 階 視聴覚室、第 1・第 2 活動室
- 内容
 - ・第 15 回市民おもしろ大学「ヒマラヤ・すばらしき教室」
講師 高橋清輝氏（立川女子高等学校校長・山岳部顧問）
参加者 35 名
 - ・講演会「市民活動とお金」
講師 土谷和之氏
(特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ理事)
参加者 33 名
 - ・市民活動団体プチ体験コーナー
参加団体 6 団体
(立川点字サークル／自立生活センター・立川／自立生活体操クラブ
「キャップの貯金箱」推進ネットワーク／なんでも遊び塾／虹の音楽隊)
 - ・市民活動センターたちかわ平成 18 年度助成団体活動展示／市民活動情報展示
展示団体 33 団体
(パドマ／子育て支援ボランティア／ミニトマの木／八舞て会／

石田倉庫の住人／すみれ寮ぼれぼれコンサート／学ボラの会／ホリデースクールわかばボランティアコーディネーター若葉小部会／若葉くらぶ／日本聞き書きボランティア協議会・多摩／立川プレーパークを考える会／地域デイサービステイクオフ 2／ひまわりの会／チャイルドラインたちかわ／高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会／市民活動サポートセンター・アンティ多摩／集住グリーンネットワーク／キネマたちかわ／生活設計支援センター／立川子ども劇場／おたのしみ交流実行委員会／立川失語症さくら会／立川市手をつなぐ親の会／立川まちおん／立川市肢体不自由児・者父母の会たつのこ／砂川公園体操会／立川点字サークル／自立生活センター・立川／オアシスらんど／虹の音楽隊／自立生活体操クラブ／リサイクルショップいろりん／東京賢治の学校)

・市民活動センターたちかわ平成 18 年度助成団体活動報告会

報告団体 5 団体 参加者 33 名

(市民活動サポートセンター・アンティ多摩／立川子ども劇場／立川まちおん／子育て支援ボランティア ミニトマの木／すみれ寮ぼれぼれコンサート)

(5)情報の受発信

■ボランティア・市民活動情報コーナーの設置

総合福祉センター2 階に、自由に情報や書籍を閲覧したり、チラシなどを入手したりできるボランティア・市民活動情報コーナーを設置している。また、貸出しパソコンを使用して情報検索ができるコーナー「フリースポット」も運営し、市民が気軽に情報を入手できるようにしている。活動分野・内容・形態ともに多様な団体が情報を寄せてくださるようになっている。

書籍については所蔵情報の公開及びPR をしていき、利用者をさらに増加させたい。

豊富な情報収集と同時に、必要としている情報を絞り込んだり、新たな情報を引き出したりすることもセンターの役割と認識している。

○情報数 約 1,500 (まちづくり／保健・医療・福祉／多文化共生・海外支援／生涯学習／こども／環境・動物保護／災害援護活動／文化・芸術・スポーツ／人権／NPO／ボランティア募集／職員募集／資格取得／組織マネジメント／ファシリテーションなどのテーマに関する情報)

■市民活動センターホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営

市民活動センターたちかわのホームページ『市民活動 WEB たちかわ』を開設・運営している。インターネット上にてボランティアの募集情報や市民活動団体のイベント情報などを配信。登録した市民活動団体については、自身の手元のパソコン操作で情報配信できる仕組みを確立している。

団体からの情報発信が増加すると同時に、ホームページの閲覧をきっかけに活動への参加につながり、市民活動センターへの問合せのきっかけとなることが年々増加している。これは、アクセス

数が前年度と比べて約 35%増加していることからもうかがえる。

平成 20 年度には、社会福祉協議会のホームページとの整合性を図るための作業部会も立ち上げ予定である。作業部会の動きと平行して、センターホームページについても、市民目線に立ち利用しやすいホームページにするため検討していく。

- ホームページへのアクセス総数（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日） 21,384 件
(平成 18 年度は 15,878 件)

■市民活動センター情報紙「市民活動センター★たちかわ通信」

ボランティアや NPO に関する取材記事、情報を毎月 1 回、情報紙として発行した。

市民が自由に手にできるよう、図書館、公民館などに設置すると同時に、市内協力店などでも設置していただき、関係機関、市民活動団体などには直接送付している。また、YC 読売新聞立川北部サービスセンターの協力により、栄町、高松町、曙町の一部においては新聞折り込みにより配布している。

年 5 回（5 月、7 月、10 月、12 月、2 月）は、立川市社会福祉協議会の機関紙である「あいあい通信」内に情報を掲載して市内全戸配布している。団体からは、開催する講座やボランティア募集のお問い合わせをいただいたという声も寄せられている。

- 発行回数 12 回（うち 5 回は「あいあい通信」）
- 発行部数 5,200 部（「市民活動センター★たちかわ通信」）
76,000 部（「あいあい通信」）

■市民活動団体リスト・ボランティア受け入れ団体リスト作成

市民活動センターたちかわ登録団体の紹介冊子「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介 BOOK」は 2 年ごとの更新であるため、平成 19 年度は新規発行はなく、新規登録団体のページの追加や掲載内容に変更があるページの差し替えを行った。

- 「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介 BOOK」
 - 掲載団体 121 団体

(6) NPO 法人設立ガイダンス

NPO 法の解説・法人化の意義・設立に向けた手順や事務についての内容で、年 4 回、平日夜間に開催。参加団体の活動分野は多岐にわたる。「NPO とは何か」を入りに多様なグループ運営の相談・質問が持ちかけられる場となっている。

ガイダンスだけでは「日程が合わない」「個別に解説してほしい」という声も多く、適宜、通常の相談としても受け付けている。

- 参加者延べ人数・・・41 名（市内在住・在勤 32 名、近隣 9 名）
- 参加者層・・・実際に法人化を考えている団体、教養として NPO の仕組みが知りたい市民
- 多い質問・・・「NPO 法人と他法人の違いは?」「役員・社員規程について」
「収益事業について」

①	5/16(水) 参加者 8名	参加者の活動分野 無認可の福祉作業所/精神障害者自主グループ/障害者支援活動/高齢者向けサービス
②	7/18(水) 参加者 8名	参加者の活動分野 高齢者福祉事業所/教育支援/たすけあいワーカーズ
③	10/17(水) 参加者 8名	参加者の活動分野 伝統文化継承/乳幼児支援/高齢者雇用促進事業/環境看護/介護
④	1/30(水) 参加者 17名	参加者の活動分野 海外支援/高齢者向けエステ/引きこもりの親の会/農業/障害者ケアホーム立ち上げ/福祉サービス苦情受付/講座の企画・運営/ボランティアセンター

(7)市民活動団体向け実務講座

柔軟で特徴ある市民事業を起こすNPO法人や非営利団体が増加している一方、運営実務能力については悩みを抱えている団体が多く、本センターで行っているNPOガイダンスや運営相談利用者からも、会計・税務・労務・定款の作り方などに関する専門講座開催を望む声が多いため、運営基盤づくりの支援策のひとつとして開催した。

前年度と比較してわずかではあるが、「定款の作り方」「会計」「税務」「労務」の講座では参加者が増えたことから、より専門的な情報を求めていたり、悩みを抱えていたりということが伺える。

■NPO法人・非営利団体のための運営実務あれこれ講座

- 開催日 ①平成20年1月30日(木) ②2月5日(火) ③2月16日(土) ④2月20日(水)
- 会場 ①②④立川市女性総合センター・AIM ③総合福祉センター
- 内容 ①NPO法人設立ガイダンス 講師：市民活動センターたちかわスタッフ
②定款のつくり方 講師：池澤良子氏
(東京ボランティア・市民活動センタースタッフ)
③NPO法人と会計・税務 講師：村田栄樹氏(税理士)
④NPO法人と労務 講師：井嶋栄治氏(社会保険労務士)
- 参加者 ①17名 ②17名 ③22名 ④20名

(8)市民活動応援講座

市民活動団体が、組織内部でのマネジメント力をつけることと、団体内外へ活動への共感を広げる力をつけることを目的に開催した。

今年度は、7月に開催した団体連絡会の中から「団体の資金確保の方法」や「企業との協働がなかなか進まない」という課題が出されたこともあり、「市民活動とお金」「企業との協働」という2つテーマを取り上げて講座を実施した。

■市民活動とお金～お金が創るつながり・つながりが創るお金～

- 開催日 平成20年3月8日(土)
- 会場 立川市総合福祉センター
- 講師 土谷和之氏 (特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ理事)
- 内容 ・市民が「お金」を通して社会に参加し、社会を変えていくことの意義について
・「お金」を通じた社会参加の具体的な方法(団体の会員になる、寄付をする、出資をするなど)について
・市民活動団体が活用できる資金の種類や特性について
- 参加者 33名

■企業に聴く『協働のツボ』

- 開催日 平成 20 年 3 月 19 日(水)
- 会場 立川市総合福祉センター
- 講師 岡本光正氏 (東京ガス多摩支店副支店長)
長島 剛氏 (多摩信用金庫 価値創造事業部副部長)
加勢川佐記子氏 (日本フィランソロピー協会)
- 内容 ・企業との協働事例紹介
・企業と市民活動団体がお互いの持ち味を持ち寄り、事業を進めるためのコツなどについて
- 参加者 32 名

(9)活動資金助成

■ボランティア活動等助成事業の実施

市民活動団体の立ち上げ資金や事業費について、団体支援委員会にて審査をし、助成の可否を決定した。審査のガイドラインに当てはまらないケースも実情やセンターの理念に照らし合わせて判断をし、必要に応じて要項やガイドラインの改正にもつなげている。今年度は、助成団体のうち 2 団体から助成事業についての意見を聞く場を設けるなど、より市民活動団体が使いやすい助成事業となるよう改正を行なった。

○立ち上げ資金助成	1 団体	50,000 円	
○事業費等助成	17 団体	986,918 円	平成 20 年 3 月現在

子育て支援ボランティア「ミニトマの木」	市民交流事業	100,000 円
ヨガサークル パドマ	市民交流事業	52,723 円
すみれ寮ぼれぼれコンサート	市民交流事業	76,163 円
学ボラの会	市民交流事業	41,250 円
地域デイサービス テイクオフ	市民交流事業	48,750 円
若葉町ボランティアグループ	社会福祉に関する普及活動	52,649 円
チャイルドラインたちかわ	社会福祉に関する普及活動	60,000 円
特定非営利活動法人 市民活動サポートセンター・アンティ多摩	社会福祉に関する普及活動	100,000 円
特定非営利活動法人 とっておきのワンシーン	社会福祉に関する普及活動	22,500 円
立川市聴覚障害者協会	社会福祉に関する普及活動	66,079 円
パソコン相談員研究会	市民交流事業	86,025 円

立川市手をつなぐ親の会	市民交流事業	74,625 円
ホリデースクールわかば ボランティアコーディネーター若葉小部会	市民交流事業	30,000 円
市民活動資料・情報センターをつくる会	立ち上げ資金	50,000 円
特定非営利活動法人 立川子ども劇場	市民交流事業	52,379 円
玉川上水の自然保護を考える会	市民交流事業	41,275 円
立川市砂川地区子供会育成団体連絡協議会	市民交流事業	82,500 円

■民間助成の周知

民間団体の助成情報を市民活動センターのホームページや広報紙に掲載したり、各団体に個別に送付したりするなどして、市民活動団体やボランティアグループに周知を図った。また助成団体によっては、申請団体の活動拠点がある社会福祉協議会が推薦文を記載する欄がある。団体独自の活動の意義について推薦文を作成した。

(10)活動スペースの貸出し

■ボランティアルームの管理運営

ボランティア活動の拠点として、市内2ヶ所のボランティアルームの管理運営を行った。

- ・しばぎきボランティアルーム（シルバー人材センター内／立川市柴崎町 1-17-7）
- ・ふじみボランティアルーム（立川市総合福祉センター2階／立川市富士見町 2-36-47）

しばぎきボランティアルームの利用件数については、昨年度とほぼ同数である。しかし、新規の利用団体が増えていないという課題も残る。また、ふじみボランティアルームの利用件数については、昨年度より30%減少している。

<利用実績>

	しばぎきボランティアルーム	ふじみボランティアルーム
4月	10 団体	11 団体
5月	10 団体	12 団体
6月	12 団体	6 団体
7月	7 団体	6 団体
8月	7 団体	6 団体
9月	7 団体	7 団体
10月	11 団体	6 団体
11月	12 団体	6 団体
12月	9 団体	7 団体
1月	7 団体	5 団体
2月	12 団体	14 団体
3月	14 団体	14 団体
合計	118 団体	100 団体

(11) 機材の貸出し

○印刷機・拡大印刷機

印刷機の利用件数は昨年度とほぼ同数。印刷枚数は20%増加している。拡大印刷機はほぼ同数。

<利用実績>

	印 刷 機		拡大印刷機	
	件数	金額	件数	金額
4月	36件	18,650円	5件	4,860円
5月	34件	15,750円	11件	5,290円
6月	24件	6,250円	6件	2,740円
7月	21件	6,900円	1件	200円
8月	14件	3,250円	1件	1,350円
9月	24件	8,700円	6件	2,020円
10月	28件	9,250円	21件	17,660円
11月	27件	9,300円	9件	6,080円
12月	20件	5,650円	6件	2,010円
1月	40件	30,250円	10件	3,890円
2月	28件	25,650円	13件	4,600円
3月	28件	27,200円	8件	3,360円
合計	324件	166,800円	97件	54,060円

○パソコン・図書・車椅子の貸出し

パソコンの利用件数は前年度より減少。図書の貸出冊数は昨年度とほぼ同数。しかし、車椅子の貸出件数については約3倍に増加している。

<利用実績>

	パソコン	図 書		車椅子の貸出し	
	件数	件数	冊数	件数	台数
4月	11件	2件	2冊	1件	14台
5月	10件	1件	1冊	5件	21台
6月	6件	0件	0冊	4件	20台
7月	3件	5件	10冊	4件	15台
8月	7件	1件	4冊	7件	28台
9月	7件	1件	2冊	3件	14台
10月	6件	1件	2冊	4件	29台
11月	1件	3件	3冊	7件	60台
12月	4件	1件	2冊	5件	57台
1月	9件	4件	4冊	2件	32台
2月	7件	2件	7冊	1件	5台
3月	3件	5件	9冊	4件	57台
合計	74件	26件	47冊	47件	352台

○各種備品の貸出

<利用実績>

備品名	団体数	貸し出し数
アイマスク	10件	延べ125枚
点字板	1件	延べ14枚
マイクスタンド	0件	延べ0枚
PA(音響装置)	2件	延べ2台
テント	3件	延べ5張

(12)ボランティア保険

ボランティア活動を行う方が安心して活動できるよう、ボランティア保険および行事保険の相談、加入の受付をした。

<利用実績>

ボランティア保険	3,593名
ボランティア活動等行事用保険	105件 6,712名

(13)視察研修・取材の受入れ

他地区のボランティアセンターや運営委員会の視察研修を受け入れた。

- 5/18 (金) 荒川ボランティアセンター職員視察
- 7/18 (水) 東京ボランティア・市民活動センター新任研修
- 7/19 (木) 法政大学樋口ゼミヒアリング
- 7/25 (水) 小金井ボランティア・市民活動センター職員視察
- 10/ 3 (水) ボランティアセンター武蔵野インターン視察
- 10/17 (水) ふっさボランティア・市民活動センター小地域部会視察
- 10/25 (木) 小金井ボランティア・市民活動センター相談員視察

(14)実習生の受入れ協力

国家資格である社会福祉士の取得を目指す実習生を積極的に受入れ、人材育成に寄与した。

- | | | | |
|-----------|----|--------------|-------------|
| ○上智大学 | 1名 | ○武蔵野大学 | 1名 |
| ○日本社会事業大学 | 1名 | ○東京福祉大学 | 1名 |
| ○東洋大学 | 1名 | ○法政大学 | 1名 |
| ○立教大学 | 1名 | ○東京学芸大学 | 1名 |
| ○白梅学園大学 | 1名 | ○ルーテル学院大学大学院 | 1名 |
| | | 合計 | 10名(4~10日間) |

中学生の職場体験を受け入れ、学びの支援を行った。

- 第7中学校2年生3名(2日間)

平成 19 年度の市民活動センター事業を振り返って

平成 19 年度は、社会福祉協議会本体の活動計画である第 2 次立川あいあいプラン 21（以下「あいあいプラン 21」）の推進 3 年目にあたり、計画の具体的な取組み状況について、市民参画による推進評価委員会を設置して評価を試みた 1 年であった。

市民活動センターに関連した大きな計画としては、モデル地域を設定しての「地域福祉コーディネーター」（以下「コーディネーター」）の配置があり、これをわかば地域包括支援センターエリアに配置することが出来、実際に同センターの職員や栄町地区の自治会役員、民生委員、グッドネイバーの方々などと地域密着で活動できたのは、大きな成果であった。また、新たな取組みとしては、都立高校の奉仕体験活動導入に伴う、教育支援コーディネーターの東京都教育庁からの委託があり市内の都立高校の同活動の授業をサポートした。

こうした事業の他にも、市民ニーズや外部環境の変化に対応した事業を、20 名の運営委員の多様なアイデアや行動力で進めてきた。

これらを含めて、平成 19 年度を総括し、平成 20 年度に向かっていきたい。

(1) あいあいプラン 21 推進評価委員会における評価

あいあいプラン 21 に計画された、市民活動センターに関連する目標や具体的な取組み、そしてあいあいプラン 21 推進評価委員会における評価は下記のとおりであった。

*評価は、具体的な取組みに関連した市民へのアンケート調査の満足度を中心とした

*評価点は、★4 つが「非常に推進できた」、3 つが「概ね推進できた」、2 つが「あまり推進できなかった」、1 つが「推進できなかった」としている。

目標	具体的な取組み	評価点
目標 1 ■地域課題に対応する住民福祉活動の推進	1 「福祉のまちづくりの場・協議会」への「コーディネーター」の配置	まちづくりの場 ★★(全地区に配置できなかった) コーディネーター ★★★★(コーディネーター活動の市民満足度は高い)
	2 「地域懇談会」の開催による地域課題の把握とその解決の推進	★★★(今後の発展性、可能性を含み)
	3 「支えあいサロン」の促進と「グッドネイバー運動」の発展	サロン ★★★★(サロンの増加、活動者の満足度は高い) グッドネイバー ★★(活動者の満足度等は高くない)

目標 2 ■ボランティア・NPO 活動の推進	1 市民参画による「市民活動センターたちかわ」の運営	★★★(積極的な市民運営が伺えるが委員の満足度は、必ずしも高くない)
	2 市民参画による政策提言と市民と行政の協働の推進	★★★(協働の推進は難しいが、土俵を作っている。他地区では対立が見られるがない)
	3 市民、ボランティア、NPO 団体、企業、学校のネットワークの形成	★★★(総合学習におけるネットワークは進んでいる)
	4 ボランティア・市民活動団体の活動支援	★★★(支援は充実している)
目標 3 ■市民の主体的な学びの支援	1 ボランティア・市民活動情報の受発信の強化	★★★(利用している人の満足度は高い)
	2 地域における多様な学習の場の設定	★★★★(市民おもしろ大学、猫会議、防災プログラム、介護予防講座などを設定している)
	3 学校教育における市民学習・福祉教育への支援	★★★★(学校関係者や協力者の評価は高い)

以上のように、「概ね推進できた」評価をいただいたが、これに満足することなく、また、アンケート調査により得られた、市民満足度なども参考に今後の事業計画づくりに活かしていきたい。

(2)地域福祉コーディネーターの配置

上記でもふれたが、あいあいプラン 21 に計画された、コーディネーターについては、モデル配置となったが、わかば地域包括支援センターエリア(=第 4 地区民協エリア)に配置することができた。コーディネーターは、配置初年度にあたり、各種団体への PR 活動や栄町地区の課題把握のための自治会役員へのヒアリング調査の実施、その調査に基づく「地域猫フォーラム」の自治連栄町支部との共催による実施、栄町グッドネイバーの方々との「防災！帰宅困難者頭上体験訓練」の実施、わかば地域包括支援センターの方々との連携による認知症予防教室の開催と受講者の組織化などを行ってきた。その他、栄町住民や関係機関から多様な相談を受け、その解決を図りながらネットワークも広げてきた。コーディネーターの「働き」についての住民評価は、概ね高いものであったが、今後も住民への周知をさらに広げ、住民の生活課題の解決を図り、関係機関とのネットワーク

を強化していかなければならない。平成 20 年度は、若葉町地区にも密着した活動を展開していく予定である。

(3) 運営委員によるセンター運営

平成 19 年度は、運営委員の任期の関係で、委員の若干の異動があった。継続された方、退任された方、そして新たに就任された方とあるが、いずれの委員におかれても、多様なアイデアやネットワーク、行動力を持っており、センター事業を充実したものに導いていただいている。

多くの市民から好評をいただいている「市民おもしろ大学」は、講師等の選任から当日の運営まで、全て運営委員でまかなわれている。特に大学終了後の講師との話らいの「お茶の場」のセッティングは、運営委員ならではのアイデアである。

助成事業の審査についても、運営委員会で行っているが、市民目線での審査が特徴である。時に委員同士の意見の衝突もあるが、申請団体の自立や助成した事業による効果を巡ってのものであり、とても建設的である。また、平成 19 年度は、申請団体が年々減少している原因をつきとめようと、実際に助成事業を利用した団体を委員会に招き、ヒアリング調査を行い、わかりやすく書きやすい「助成金ガイド」に改善することが出来た。ともすれば、実施者主体になりがちな助成事業だが、市民活動団体が活用しやすいよう、常に改革を続けている。

その他にも、団塊世代の市民活動への参加のきっかけにつながるようなイベントの企画と実施、そして何よりも市民活動センターのあるべき姿を追い求めながら、改革を図っていこう、事業を行っていこう、という姿勢には、頭が下がる思いである。今後も、運営委員によるセンター運営を継続し、ますます市民に活用され、愛されるセンター運営を目指していく。

(4) 平成 19 年度を総括して

平成 19 年度も、20 名の運営委員を中心に、「協働」、「地域づくり」、「活動支援」をキーワードに事業を推進してきた。

日頃、市民から受ける相談は、年々増加し市民の認知や頼りになるセンターに近づいてきている。

「協働」の場面では、立川市第 2 次基本計画の進捗評価を市民が行ったり、立川市を知ろうと財務、経営改革、まちづくりに関する内容の出前講座を活用して市民が学習したり、たまがわ・みらいパーク（旧多摩川小学校）の運営を市とパートナーシップ協定を締結した団体が市と協働して運営したり、こうしたことに市民活動センターが協力するスタイルが定着しつつある。市民活動センターは、立川市行政が標榜する「市民力と連携のまちづくり」の一翼を今後も担い、異質なもの同士が対等な立場で同じ目的を達成する「協働」を進めていく。

「地域づくり」については、前述したように地域福祉コーディネーターを配置することができた。

「地域課題に対応した住民福祉活動の推進」を目標とする「地域づくり」においては、このコーディネーターと地域包括支援センター、民生委員協議会、グッドネイバー推進団体との連携は欠かせない。他地区にもコーディネーターが配置され、地域住民の課題解決や目的達成のためのネットワークを充実させていきたい。また、他地区での地域懇談会では、防災まち歩きを実施しながら、災害への備えと住民同士の顔の見える関係作りを行ってきた。こうした活動を通して、西砂・一番町地区では、「西砂・一番市民活動ネットワーク」が発足された。住民の主体的な「地域づくり」が徐々

にはあるが進んできている。

「活動支援」については、多様な相談に対する的確な対応を中心に、助成事業、情報の受発信、OA 機器の貸し出しなどを行ってきた。今後も市民活動団体の「資金」、「活動場所」、「人材」、「運営」といった課題の解決につなげられるよう、団体の方々とともにアイデアを出し合い、知恵を絞って望んでいきたい。

その他、近年増加している企業の CSR 活動のサポート、立川市行政各課との連携の広がりなどが平成 19 年度の特徴的な活動であった。

(5)平成 20 年度に向かって

平成 20 年度は、平成 19 年度の活動を充実させながら次の活動に重点的に取り組む予定である。

○地域福祉コーディネーター活動の充実

- ・ 栄町地区自治会役員と民生委員、地域包括支援センターとの懇談会開催による、災害時要援護者の支援方策の検討
- ・ 若葉町地区自治会長へのヒアリング調査の実施

○立川市第 3 次基本計画の策定支援

- ・ 市民会議の運営

○災害ボランティアセンター運営マニュアルの策定

- ・ 立川市と協定を締結した災害ボランティアセンターの運営マニュアル作り

○都立高校の奉仕体験活動のサポート

- ・ 立川高校、北多摩高校、砂川高校

○第 3 次立川あいあいプランの策定

- ・ 市民活動センター事業の中期計画づくり

以上、主な重点事業を掲げたが、いずれにしても運営委員によるセンター運営を中心に、一步一步着実にその歩みを進めていきたい。

市民活動センターたちかわ平成 19 年度収支決算(概略)

(単位円)

科 目	予 算	決 算	差 異
会 費 収 入	1,000,000	543,000	457,000
寄 付 金 収 入	6,000,000	6,000,000	0
東京都受託金収入	2,678,000	2,677,500	500
立川市受託金収入	13,062,000	13,016,000	46,000
立川市補助金収入	14,823,000	13,806,231	1,016,769
事 業 収 入	356,000	426,490	▲70,490
共同募金配分金収入	2,850,000	2,850,000	0
雑 収 入	949,000	1,250,043	▲301,043
受取利息配当金収入	0	0	0
経常活動資金収入計	41,718,000	40,569,264	1,148,736
人 件 費 支 出	29,285,000	26,858,902	2,426,098
事 務 費 支 出	4,128,000	3,556,222	571,778
事 業 費 支 出	5,323,000	4,098,167	1,224,833
共同募金配分金支出	2,850,000	2,850,000	0
助 成 金 支 出	3,640,000	1,865,264	1,774,736
経常活動資金支出	45,226,000	39,228,555	5,997,445
経常活動資金収支差額	▲3,508,000	1,340,709	▲4,848,709

1 収入について

*事業収入は、NPO ガイダンス、貸出し機材の利用料など

*雑収入は、夏体験ボランティアの参加費、実習生の受入謝礼など

2 支出について

*人件費支出は、正職員 4 名、非常勤職員 1 名分

*事務費の主な支出は、運営委員旅費、市民活動センター通信の郵送代など

*事業費の主な支出は、NPO 実務講座の講師謝礼や旧多摩川小市民会議運営にかかる業務委託費など

*共同募金配分金支出は、貸出用印刷機、拡大コピー機、パソコンのリース料など

3章 これまでの5年とこれからの5年

1. 開設からの5年

真に市民にとって必要とされるセンターを再構築しようと、「市民活動センターたちかわ」を平成15年4月に開設して平成20年3月で5年が経過した。

これまでの5年間で留意してきたことは以下の通りである。

■多様な分野の市民活動とつながる

暮らしに関わるあらゆる場面で、NPOやボランティアの活躍場面が広がっている。「福祉」「環境」「文化芸術」「社会教育」「多文化共生」など、いろいろなテーマに取り組む人や団体との関係性をセンター自身が絶えず作ることで、人や団体の新たなつながり生み出すことに留意してきた。

■多様なスタイルの市民活動を応援する

まちの中には、さまざまなスタイルで活動している人や団体がある。

ボランティアグループとして公的サービスでは届かない細やかなサポートを提供したり、NPO法人格を取得して社会事業を興したり、生涯学習を入口に社会課題を共有化したり、子育てママたちが集まって悩みを一緒に解決したり。自治会やグッドネイバーなど自分たちの地域のために日々活動する団体もある。

市民活動センターは、

- ・個人も団体も
- ・地域密着型活動もテーマ追求型活動も
- ・「市民活動したい人」も「市民活動のサポートを必要としている人」も

非営利で活動する人や団体の取り組みを応援することで、まちや社会がより豊かになることに貢献したいと意識してきた。

また、企業や行政などの他セクターと市民活動セクターのつながりを作り、社会課題に共に取り組む新たなパートナーシップを生み出すことも重要視してきた。

市民活動支援のあり方で日々大切にしているのは以下のことである。

- ・人も団体も多面的に捉える

発注のされ方で、人や団体の活動の幅が広がる。

場面によって「ニーズを抱えた当事者」であったり「支援者」であったりと人・団体は流動的に入れ替わる。「支援する側」「支援される側」と単純に二極化は出来ない。

- ・規模と価値観が多様であることを理解する
相手に合わせた支援が必要である。
- ・異質なものを引き合わせて相乗効果を生み出す
市民活動も行政もタテ割りの現状が多い。横糸としてのコーディネートが必要である。

■地域密着で生活課題解決に貢献する

多様化する生活課題を解決するためには、もはや行政の一律的サービスを受動するだけでは難しくなっている。地域特性や事情に応じて、住民自らが暮らしの課題を感知し、解決のための知恵を出し合う必要性が高まってきた。

立川のまちに密着して福祉のまちづくりを推進する立川市社会福祉協議会を母体とする当センターでは、以前から職員が担当地区を持ち、具体的にその地域の人や機関の力を引き出しながら解決にあたってきた。

平成 19 年度からは、その業務に特化した「地域福祉コーディネーター」を栄町、若葉町地区に配置している。

■市民の合意形成づくりに関わる

市民活動の分野が多岐に渡り、行政や企業など他セクターと関わりながら活動を進める機会が増えてくると、異なる考えを持つものが集まり、合意をつくっていく機会も自ずと多くなっていく。時に対立構造に陥り、共に物事を進むことができなくなってしまう現状も見受けられる。

立川市では平成 15 年から「市民参加元年」と謳い市民と行政の協働の機会が模索されている。センターではより成熟された市民主体の社会を目指して、行政施策を検討する市民会議の運営やファシリテート業務を積極的に受けてきた。

■組織マネジメントの相談に応える

活動資金や活動場所の確保について、NPO 法人化をすべきかどうか、活動への参加者の広げ方、異なるセクターとの協働方法など、団体運営に関する相談が多く寄せられるようになった。

組織内で再確認することの整理や、NPO に関することの説明、新たな社会資源を一緒に探すお手伝いが日常業務として定着している。

2. これからの 5 年

社会課題を感知しながら、真に市民にとって必要とされる役割を担えているのか、運営委員会を柱にして進んでいくことに変わりはない。

これまでの 5 年の積み上げから見えてきた、今後 5 年で取り組むべきことは以下の通りである。

■日々寄せられる相談を大事にする

「ボランティア活動がしたい」「NPO を立ち上げたい」「市民活動情報が欲しい」という明確な相談の一方で、「制度の狭間で行き場がなく困っている人をなんとかしたい」「解決方法が社会の中で確立されていない。どうしたらいいのだろう」「どこに相談したらいいのかわからないのでとりあえず聞いてほしい」といった漠然とした声が寄せられるのが、他の相談窓口と比較した際のセンターの特徴である。

この漠然とした、行き場のない相談の中に、新たな社会課題が見え隠れしていることがしばしばある。市民発の活動として取り組む意義のある案件が多く含まれている。

また市民の中には相談を持ちかけることや、アイデアを整理して提案することに不慣れな人もいる。その人自身の発信力を後押しすることは市民主体の社会づくりの第一歩である。

- ・さまざまな様相を呈し投げかけられる日々の相談の意味を見定める
- ・相談者を軸に置きながら解決策を共に探る
- ・状況に応じた的確な情報提供やアドバイスをする
- ・窓口での待ち体制にとどまらず、地域福祉コーディネーター業務のように、地域での課題解決を目指した住民からの相談の掘り起こしも大切にする

この日常の繰り返しがセンターの大事な基盤である。

■センターの認知度・信頼度を高める

多彩な人・団体から相談を持ちかけてもらうためには、センターの役割が広く認知されていることが必須である。

地域に密着した顔の見える関係性をセンター自身が豊かに携えていることで、具体的に人をつなぎ、「だから今あなたの力が必要」と持ちかけることが出来る。

またセンターの活動自体を多くの人に支えてもらい、安定したセンター運営をしていくためにも認知度・信頼度の向上が必要である。

■市民活動参加者の裾野を広げる

市民活動は、一部の熱意ある人だけが関わればよいというものではない。市民ひとりひとりが社会になんらかのつながりを持ち日々の生活を営んでいる。

時間的な制約のある人や、これまでボランティアやNPOとは無縁だった人にも参加しやすい「ちょこっと関われる」活動や今の生活の中から付加できる社会貢献の機会提供が課題である。

■市民活動や協働事業の成果を明確にする

個々の市民活動の成果が市民生活にどう還元されているのかを分かりやすく明確化することが、新たな参加者増にもつながる。

「市民と行政の協働」の機会はこの5年で激増したが、行政から機会を作っていることが多い。これまでは行政関係者だけで進めてきた「まちの施策」への協働だけでなく「まちの施策からもれること」への協働を市民発でどう進めていくかも課題である。

協働のパートナーも「市民と行政」だけでなく「市民と企業」「市民活動団体同士」など多様な組み合わせの機会を引き出していきたい。企業のCSR活動をどうまちの課題解決に引き寄せていくかも次のステップである。

また協働の評価については、「良い・悪い」「出来ている・出来ていない」とか数値の増減の結論で終わるのではなく、次に取り組むべきことが見えてくる評価を構築することに貢献していきたい。

■「これからの公共」を描く

これまでの公共政策は行政職員中心に担ってきたが、これからはNPOを含めた多彩な担い手で広く担っていく時代といわれている。

ひとりひとりの市民としての行動のあり方や地域活動から、まちの政策に至るまで「これからの公共」について、市民活動センターという立場から描いていく必要がある。

まちの中で公共事業を担い始めた市民活動団体から寄せられている、財源確保や雇用安定化の課題については、

- ・税金投入すべき公共的ニーズの定義づけ
- ・公益ファンドの検討
- ・寄附文化づくり などのことを柱にしながら本格的に取り組む必要がある。

■立川の総体的なまちづくりを常に意識していく

市民活動の領域は暮らしのあらゆる場面につながっている。一人ひとりの暮らしのあり方から地域社会の営み、まちの施策、施策からもれる狭間の社会課題。ひとつひとつの案件をバラバラに捉えるのではなく、本質を探りながら事業運営をしていきたい。

また、地域に軸足をしっかりと持ちながら、解決すべきことに応じて、市民セクター、行政、企業、専門機関など、それぞれと領域を時に重ね、協働して立川を魅力あふれるまちにしていきたい。

4章 資料

1. 平成 19 年度登録団体

○障害のある人や高齢者、医療に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 地域福祉サービス協会	高齢者・障害者が地域で暮らすための助け合い活動
あそびサークル「こんぺいとう」	障害のあるなしに関わらず余暇を楽しむための活動
リサイクルショップいろりん	障害当事者によるリサイクルショップ経営
立川手話友の会	日本手話とろう文化をろう者から学び理解を深める
若葉くらぶ	若葉町中心に障害のある子もない子も共に育つ地域づくり
ぐる〜ぶ あゆみ	障害を持つ子供たちのために布の絵本や遊具の製作
立川点字サークル	視覚障害者のための点訳活動
日本聞き書きボランティア協議会・多摩	高齢者の話を聞き、記録し小冊子にして贈る活動
地域デイサービス テイクオフ	ハンディを持つ人たちの為に余暇活動の場を提供
ひまわりの会	障害のある人を対象にリハビリ活動
ボランティアグループ“木苺”	柏地域サービスセンター(高齢者デイ)でのボランティア活動
立川市聴覚障害者協会	聴覚障害者相互の親睦や、障害理解を広めるための活動
立川市五日制の会 ピュア	障害児とその親のふれあいをサポート
拡大写本 グループふうせん	弱視者のために書類や書籍を拡大
立川市肢体不自由児・者父母の会 たつのこ	肢体不自由児とその親のための交流活動
ユニバーサルボランティア東京	高齢者による高齢者のためのお話し相手活動
立川市手をつなぐ親の会 おもちゃ図書館ピコ	発達の遅れや心身に障害のある子どもたちの遊び場活動
エクセルシオボランティアグループ	至誠ホーム内の喫茶ボランティア活動
立川麦の会(立川精神障害者家族会)	精神障害者が安心して住み続けられるまちづくり活動
立川市手をつなぐ親の会 スマイルくらぶ	知的ハンディのある子どもたちの放課後や余暇活動
立川市朗読サークル「こえ」	視覚障害者のために録音テープ・CD 製作
国立病院災害医療センター ボランティアの会	外来患者の受付・案内サポート
特定非営利活動法人 立川マック	アルコール依存症回復のためのプログラム活動
Js club(ジェイズクラブ)	障害者対象のアウトドアメンバーズクラブの運営

立川EAグループ	うつ、対人恐怖、心の病を持つ人々の仲間活動
立川失語症さくら会	脳卒中や交通事故の後遺症者の回復支援活動
特定非営利活動法人 MeTHoD	精神障害者グループホームの運営
立川手話こぶしの会	地域の聴覚障害者との交流活動と手話技術向上のための活動
立川市手をつなぐ親の会	市内在住の知的障害児・者の福祉増進と援助活動
特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ	高齢者・障害者への介護保険サービスや自立支援サービス事業など
特定非営利活動法人 しらゆり	知的障害を持つ方々の働く場
特定非営利活動法人 オアシスランド	身寄りなく無職状態の中高齢者の共同生活施設運営
特定非営利活動法人 立川市障害者後援会	身体・知的・精神障害者への支援と理解を広める活動
立川市視覚障害者福祉協会	視覚障害者自身による社会参加推進活動
特定非営利活動法人 自立生活センター立川	障害のある人が自分らしく生活するためのピア支援活動
ラッキークローバー	知的障害児を持つ家族として余暇活動や勉強会を開催
たっちっこの会	ダウン症児の家族同士による情報交換や悩み相談
ら・ら・ら Crayon	知的障害児のスポーツサークル

○こどもや子育てに関するグループ

団体名	活動内容
パドマ	子ども連れで参加可能なヨガサークル
特定非営利活動法人 こどもと文化協議会・プラッツ	子どもの遊びの支援、プレイリーダーの人材育成、文化芸術活動
特定非営利活動法人 市民共同学習プロジェクト子どもひろば	子どもが自分を守る力をつけるための出前講座や不登校児支援
ホリデースクールわかば ボランティアコーディネーター若葉小部会	地域と学校をつなぐコーディネート、子どもの居場所づくり
立川プレーパークを考える会	自分のやりたい遊びを思いきりできる冒険遊び場の運営
学ボラの会	富士見町を中心とした学校支援ボランティア
チャイルドラインたちかわ	18歳までの子どもを対象にした電話相談活動
特定非営利活動法人 立川子ども劇場	子どもたちに演劇・音楽・芸術・遊びなどの文化的体験を提供
子育て支援ボランティア ミントマの木	子育て支援、見守り保育ボランティア
キッズクラブ	4-5歳児の親子グループ活動
はぐはぐ	子育て中の親が語り合い、子どもたちが安心して遊べる居場所活動
和みアカデミー	幼児から高齢者を対象に自由な学びの場を提供

社会福祉法人 西立川児童会館	18歳までの子どもを対象にした自由な遊び場活動
ありんこkid's	0-3歳までの未就園児とそのお母さんのための読み聞かせサークル
子育ていれかわりたちかわり	子育てサークルや支援団体のネットワーク活動
錦町子ども会育成団体連絡協議会	錦町6町会の子ども会をつなぐ活動
立川マザーズ	ひとり親家庭の母子・父子などの交流親睦活動
すくすくフォローグループ	小さく生まれた子と親への支援活動
特定非営利活動法人 東京賢治の学校	シュタイナー教育をベースにした自主学校
親子で学ぶサークル『ハーモニー』	講師を交え「英語」「体操」「リトミック」活動など
ボーイスカウト立川第7団	子ども達の健全な成長のために指導者のもとにスカウト活動
市民型ソーシャルワーカー ほっとほっとたちかわ	傾聴を中心にした子どもと家庭のための訪問支援活動

○環境に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 集住グリーンネットワーク	緑豊かなまちづくりのための環境教育や雑木林保全活動など
立川市砂川公園 環境美化グループの会	清掃活動や子ども達のための環境学習支援
富士見町に蛍を呼び戻す会	地域に蛍を定着・繁殖させるフィールド活動
たちかわ水辺の楽校推進協議会	多摩川の自然保全と子ども達の体験活動支援
立川かんきょう市民の会	親子の自然体験学習や環境イベントの実施
玉川上水の自然保護を考える会	玉川上水の自然環境保全のため野草保護や水路清掃など
特定非営利活動法人 武蔵野の里作りクラブ	昭和記念公園内で武蔵野の農村風景再現と体験活動
『キャップの貯金箱』推進ネットワーク	ペットボトルキャップを回収・換金しNGOへ寄附

○文化・スポーツに関するグループ

団体名	活動内容
シネマ 16	定例映画会・映写機学習会
八舞て会	高齢者施設などで邦楽・芸能プログラム披露
石田倉庫の住人	アート・クラフトの体験教室や地域イベント開催
すみれ寮ぼれぼれコンサート	障害の有無を問わず楽しめるコンサートの企画実施
トゥルーハート協会	高齢者を対象にした演奏や歌の活動
立川市テニス向上委員会	テニスのマナーや技術の無料レッスン提供

ミュージック・トレイン	乳幼児やその家族を対象にしたコンサート活動
特定非営利活動法人 SPORTS・ACT	地域スポーツの環境整備と障害者の地域支援事業
立川親と子のよい映画をみる会	良質な映画の定例上映会
歌扇会	福祉施設などで歌や踊りのプログラム提供
ダイエットクラブ	身体を動かす機会の少ない人に運動不足解消の機会を提供
ウクレレ 囲んでみんなで唄おう 「ハウオリ」	高齢者施設での訪問演奏活動
多摩ミュージック21	子ども、障害者、高齢者を対象に良質で安価なコンサートを開催
プルメリア・フラグループ	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
キネマ たちかわ	優れた映画の自主上映サークル
ハワイアングループ —WAIPIO PLUS—	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
砂川公園体操会	誰でも参加できる朝の体操活動
虹の音楽隊	高齢者や児童施設、地域イベントでの演奏活動
立川まちおん	ストリートミュージシャンの支援や地域音楽イベントのコーディネート
自立生活体操クラブ	音楽に乗せてイスやボールを使った体操プログラムの提供

○多文化共生に関するグループ

団体名	活動内容
松中日本語教室	在住・在勤外国人のための日本語教室
特定非営利活動法人 たちかわ多文化共生センター	外国人のための相談受付や多文化共生イベントの実施
特定非営利活動法人 立川国際芸術祭	「まち全体が美術館」の考えをもとに各種文化企画の実施
立川国際友好協会(TIFA)	在住・在勤外国人のための日本語教室

○地域づくり・まちづくりに関するグループ

団体名	活動内容
若葉町の福祉を考える会 グッドネイバー若葉	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
柴崎町地区 グッドネイバー推進協議会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
若葉町ボランティアグループ	高齢になって外出が少なくなった方たちの仲間づくり
特定非営利活動法人 高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会	コミュニティレストランや地域の居場所づくり事業
栄町地区グッドネイバーをすすめる会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
愛犬パトロールグループの会	愛犬を伴った防犯活動や地域環境美化活動

たすけあいワーカーズ パステル	高齢者、障害者、子どものいる家庭へ有償家事援助サービス提供
あすなる洋裁グループ	福祉施設等の依頼に応じ衣類や小物の作成
学校花いっぱい活動 ビオラの会	学校や地域での花の植え付けを通じた交流の場づくり
ぐるーぷ「たけのこ」	使用済み切手の整理
西砂・一番地区地域福祉を考える会 (グッドネイバー 西砂一番)	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
緊急通報犬育成協会	防犯福祉を目的とした緊急通報犬の育成
特定非営利活動法人 とっておきのワンシーン	絵と文章による心温まるワンシーンを全国から集め紹介
特定非営利活動法人 立川教育振興会	教育・文化に関する講演会開催や学校支援ボランティアの推進
おたのしみ交流会実行委員会	ひとり暮らし高齢者と地域の子どもたちの交流活動を実施
特定非営利活動法人 安全学研究所	広範な安全に関する勉強会の実施
市民活動資料・情報センターをつくる会	市民団体発行の通信やミニコミの保存・収集公開活動
立川よいと祭り実行委員会	市民相互のふれあいと郷土意識向上を目的とした祭の実施

○いろいろな相談事業に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 生活設計支援センター	年金・保険・相続・資産運用などの相談事業やセミナー開催
特定非営利活動法人 シニアメイトサービス	成年後見制度についての学習会や無料相談会
特定非営利活動法人 市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民活動団体や個人へ向けた情報誌作成や活動支援
特定非営利活動法人 ライブリー	家庭内の問題についてのカウンセリングや法務相談事業
たちかわパソコン倶楽部	初心者を対象にした無料相談会や福祉施設での講座実施
特定非営利活動法人 欠陥住宅を防ぎ耐震補強を推進する会	無料耐震相談会やセミナーの実施
特定非営利活動法人 より良い住宅環境作りを支援する会	新規住宅購入や健康住宅を考える講座の実施など
特定非営利活動法人 「育て上げ」ネット	若者就労支援事業
片麻痺ネットワーク	初心者を対象にした無料相談会
シニア倶楽部	高齢者、障害者、主婦を対象にしたパソコン教室実施
パソコン相談員研究会	初心者を対象にした相談・講習会の実施

2. 市民活動センター★たちかわ通信

○Vol.40(平成 19 年 4 月発行)

市民おもしろ大学は、魅力的な人や活動、地域をつなぐ場を提供しています。



市民活動センター★ たちかわ通信



◆編集・発行◆
社会福祉法人 立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ
〒190-0013 立川市富士見町 2-36-47 Tel : 042-529-8323 Fax : 042-529-8714
【E-mail】aiaive@whi.m-net.ne.jp 【URL】http://act.annex-tachikawa.com/

◆開所日・時間◆
月～金曜日 8 : 30 ~ 19 : 00

市民活動センターたちかわは、ボランティアやNPO・地域活動などあらゆる市民活動をサポートするセンターです。

2007.04 Vol.40

第11回 市民おもしろ大学開催!!

3月8日(土)、立川市総合福祉センターにて、第11回市民おもしろ大学が開催されました。今回の講師は、立川のタウン誌『えくてびあん』の編集責任者の芳賀敏博さん。「『えくてびあん』の芳賀さんに聴く“人探し名人”になる方法」というテーマで、芳賀さんのお話をお聴きしました。

人を中心にして立川の文化を発信

『えくてびあん』は人にスポットをあてて立川の文化を発信している月刊誌です。文化を、“人が暮らす上でかかわること全て”にとらえて、いろいろなことに興味をもって取り組んでいます。「興味を持ってふれてみる」ということは非常に大事なことで、それによって、新しい自分の世界がひらける、と芳賀さんは言います。

実は、人を探すのは苦手？

芳賀さんは、社交的な性格ではなく、決して“人探し名人”ではないと言います。

少し頑張って一歩踏み出して、そのひとつひとつの出会いを大切にしているのだそうです。



人間は人間が好きなんですよ

人と出会って、興味・関心を持って話を聴いていると、自分が知らなかったことなどを聴くことができると楽しい。そしてだんだん人が好きになっていく。「人間が一番関心があるのは人間なのではないか」という言葉が、印象的でした。



<<<今月号のもくじ>>>	
○第11回市民おもしろ大学開催!!	P. 1
○幸町九番組「まち歩き」の報告	P. 2
○「地域福祉コーディネーター」 が誕生します	
○市民活動・自治会活動のための 保険説明会開催報告	P. 3
○たまがわ・みらいパークが本格始動!!	
○情報コーナー	P. 4-6
○市民活動センター団体登録について	P. 7
○市民活動センターからのお知らせ	P. 8

保険説明会や団体運営のサポートなど、真に必要とされる団体支援を目指して、事業を進めて

市民活動・自治会活動のための 保険説明会 開催しました

ボランティア活動や自治会活動で「事故があった時が心配…」という声が挙がったことはありませんか?

会社や学校と違って、意識せずとも誰かが手続きを踏んでくれているという訳には行きません。

3月15日(木)に開催された保険説明会で、講師の三村明さん(特定非営利活動法人生活設計支援センター/ファイナンシャルプランナー)からは、

- 1)まず自分達にとって「危険なこと」「避けたいこと」は何かを考えることが大切
- 2)大きな損失を防ぐためには「そもそもやめる」「事前に予防のための手立てをする



- (例えば地震に備えて自治会で防災の取り組みをするように)」「危険なことを分散させておく」「契約によって誰かに移転させる(保険加入)」などの手段がある
- 3)保険はあくまでも事故や危険に対する一手段

といったお話がありました。

目的別に保険の種類もいろいろあります



年度替わりのこの季節。グループ内で、いま一度、自分達の活動にとっての危険を考えてみませんか? 保険加入を検討される際には、市民活動センターまで、ご相談ください。

たまがわ・みらいパーク(旧多摩川小学校)が本格始動します!!

生まれ変わる「廃校」

平成18年1月、旧多摩川小学校活用等跡地検討市民委員会からの「基本提言」が市長へ提出されました。4月には市民委員有志でオープニングイベントを開催。5月になり旧立川市立多摩川小学校運営協議会が発足。実際にプログラムなどを実施しながら「基本提言」示された基本コンセプト「子どもたちを中心に様々な人が集い、楽しみ、学びあう場」という活用が、市民と行政の新しい協働型での運営になるよう各教室の活用案や運営体制、施設・設備管理、プログラム実施に関するルールの検討が重ねられました。

参加者の思いを乗せて、空高く舞う紙飛行機!!



1日も早く子どもの声が戻ることを願って・・・

運営協議会では、たまがわ・みらいパークに楽しそうな子どもの声が響くイメージを膨らませながら、自主勉強会、先進地への視察、地元への

説明会なども含め23回の会合を重ねてきました。また、市民活動センターたちかわも、運営協議会事務局としてサポートしてきました。

「みらいパークをいい場にしたい!」という思いはひとつに、異なる意見も率直にぶつけ合いながらの1年間でした。

そして、これから・・・

検討してきた内容は「たまがわ・みらいパークの活用について」という報告書にまとめられました。そして4月からは、市民による「たまがわ・みらいパーク企画運営委員会」が立ち上がります。

運営協議会メンバーの有志、公募市民、地域住民の力が結集された委員会組織となる予定です。

今後、この市民組織である企画運営委員会が中心となり、みらいパークでの様々な企画がスタートします。それを支える運営体制も確立します。

「企画する」「プログラム実施する」「参加する」「ボランティアとして手伝う」「未来のために評価する」「寄贈する」など、誰もがみらいパークへさまざまな方法で関わることができます。募集情報については、4月からの情報発信をお楽しみに!!

※報告書の入手を希望される方は市民活動センター(☎042-529-8323)までお声かけください。

●情報をお寄せください! ★みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください●

市民の多くが関心を寄せる防災や被災地への取り組み。日頃から顔の見える関係づくりが被害を減らす大きな鍵となります。

一番町地区防災まち歩き実施しました!

なぜ「防災まち歩き」を実施するのか?

去る5月20日(日)、一番町1丁目~3丁目地区において防災まち歩きを実施しました。

これは「自分たちの住むまちの課題は何だろう。解決のための具体策は?」と話し合いを続けてきた西砂・一番町地区地域懇談会で「普段は別々の生活を送る多様な地域住民がつながるテーマは防災だろう」と企画したものです。「防災まち歩き」では、設備や避難場所を知ることだけでなく、自治会や消防団の取り組みを知ったり、参加者同士が直接に顔見知りになることも大きな目的のひとつとなっています。

歩いて初めて見えたもの。

住んでいるわがまちの特徴はなに?

当日は、総勢48名の参加がありました。

いくつかのコースに分かれ、高いブロック塀や看板、狭い道など危険な箇所のチェックはもちろん、まちに設置された消火器や消火栓だけでなく、コンビニや仕出し弁当屋など、「災害時に役立つものはなんだろう」ということを意識して歩

きました。実際に複数の目で歩いてみると、「新興住宅が増えている」「工場が多い」など地域の特徴も見えてきます。

一番町地区では、農家、畑、生産緑地が多く、農耕具や重機、ビニールハウスなど、災害時に利用できるものも多くありました。

参加された皆さんからは「○○さん家では、水、氷を確保できる」「○○さんは、重機を持っているから建物が倒壊した時に活用できるのでは」など活きた情報がたくさん出されました。

顔見知りになることから防災ははじまる

今回は、地域住民だけでなく、他地区に住む人や、車イス利用者、視覚障害のある方も参加され、多様な目で「被災時にどんな問題が生じるのか」気付く機会ともなりました。また「多様な人が地域には住んでいる」という再確認も出来ました。

「あいさつから防災は始まる」という言葉もあります。まずは、こういった取り組みを通し顔見知りになることで、いざという時に助け合いができるかと改めて実感することができました。

「こんな場所に消火器が!」など発見の連続。



まちを歩いてみた後で気付いたことを地図に落とし込みます。



能登半島地震における被災地支援のお手伝いをしてきました

平成19年3月25日(日)の9時42分頃に発生した能登半島地震。

死傷者や家屋損壊などの被害が多く出ましたが、現地では、行政支援の他に、県内に3箇所の災害ボランティアセンターが設置され、ボランティアによる、災害ゴミや瓦礫の処理、引越しの手伝い、住民交流活動が行われました。

本センターでは、全国社会福祉協議会の災害ボランティアセンター運営支援のための職員派遣要請に応え、職員1名を派遣しました。

仮設住宅への引越し作業。ボランティアの力が発揮されます。



派遣期間 平成19年4月30日(月) ~ 同年5月5日(土)

活動場所 石川県輪島市災害ボランティアセンター門前

活動内容 災害ボランティアセンターの運営支援、被災者ニーズの把握等

※全国の社協では、被災地の災害ボランティアセンターの支援のお手伝いをしています。 ※能登半島の一日も早い復興を祈念します。

活動拠点となった災害ボランティアセンター



●情報をお寄せください! ★みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください●

○Vol.42(平成 19 年 8 月発行)

運営委員会ではこれまでの5年間で重ねてきた議論をもとに、これからも、時には立ち止まって振り返りながら、まちづくりを進めていきます。



市民活動センター★

たちかわ通信

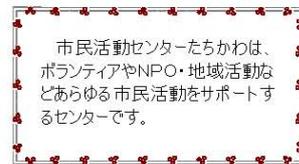


◆編集・発行◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ
〒190-0013 立川市富士見町2-36-47 ☎042-529-8323 Fax: 042-529-8714
E-mail: aiaivc@whi.m-net.ne.jp URL: http://act.annex-tachikawa.com/

◆開所日・時間◆

月～金曜日 8:30～19:00
土曜日 8:30～17:15 ※日曜日・祝祭日はお休みです。



市民活動センターたちかわは、ボランティアやNPO・地域活動などあらゆる市民活動をサポートするセンターです。

2007.08 Vol.42

市民活動センターたちかわ運営委員会

新運営委員会スタート

市民活動センターたちかわでは、「センターが何にどう取り組んでいくか」を市民による運営委員会で決めています。

今年度は、2年任期の委員の改選時期にあたり、新たに8名の運営委員を迎え、20名の体制で新規スタートしています。

アートのまちを盛り上げようという人、環境学習を提供している人、障害者の生活支援に取り組む人。会社勤めをしている人、定年退職後の新たな生活を始めている人、子育て中の人、組織を取りまとめる立場にある人などなど、運営委員会がなければ、同じテーブルに着くことはなかったかもしれない魅力溢れる市民で構成されています。

“多様な背景を持った市民が知恵を持ち寄り、それぞれのチカラを引き出しあうことが大切”
ということを運営委員会自らが実践中です。

「寄附文化を創ることに取り組みたい」「センターの広報力アップをはかろう」「防災をテーマに地域のつながりを作れないか」「お父さんたち向け体験学習プログラムがあったらいいのでは」などなど気になっていることが色々とお出されています。

“市民にとって真に必要とされるセンター”
を模索しながら、運営委員会は進行中です!



ある日の運営委員会。行きつ戻りつ立川のまちづくりへの想いがアイデアとして溢れ出てきます

センターのあるべき姿はなんだろう?を探りながら

運営委員会では、常に立ち止まり、皆で「こうだろうか」「でもこういうこともあるんじゃない?」と確認し合って結論を出すというプロセスを大事にしてきました。

新たな取り組みをした際は、「何が足りなかったか探しの反省会」をするのではなく、「新たにこんな人とのつながりが出来たね」を共に味わう時間を分かち合ってきました。

<<<今月号のもくじ>>>

○市民活動センター運営委員会	P.1
○夏! 体験ボランティア2007	P.2
○新潟県中越沖地震義援金について	
○都立高校奉仕体験活動報告	P.3
○情報コーナー	P.4-6
○地域福祉コーディネーター活動報告	P.7
○貸し出し機材の紹介	
○市民活動センターからのお知らせ	P.8

自らの意思と判断力を持ち、他者と関わりあいながら社会をつくっていくための市民学習は、新たな発見の連続です。

夏！体験ボランティア2007

7月、8月の夏休み期間でボランティア活動を体験する「夏！体験ボランティア」を実施しました。今年は120名以上の参加者が市内のいろいろな施設や団体で活動しましたが、ここで、2つのボランティア活動をご紹介します。

①玉川上水の自然保護を考える会

この日は午後1時にこびら橋会館に集合して、緑道の清掃や草刈の手伝い等の活動をしました。活動しながら、メンバーの方から、玉川上水の歴史や葎の復元、じゃこうあげはの保護等、とても興味深いお話を伺いました。

活動終了後、地元で採れたきゅうりやトマト、うどを食べながら、感想を話し合ったり、活動の苦労話を聴いたり、楽しい時間を過ごしました。

参加者からは「暑かったけど、野菜を食べて元気が出た」「自然を良く知っていないと、自然を守ることはできないと感じた」等の感想をいただきました。



②デイサービスでの活動支援

もう1ヶ所活動紹介するのは、総合福祉センター内にある知的障害者デイサービスコスモスです。

この日、コスモスでは、創作活動と音楽活動を行いました。

やや緊張気味のボランティアの方々を利用者の方々が笑顔で迎えてくれました。

午前中は、絵を描いたり紙すき作品の制作などを利用者の方々と行い、午後の音楽活動は、音楽に合わせて体を動かしたりする活動で、また、リラクゼーション効果もある活動でした。

そんな中でボランティア参加者からも笑顔がたくさんこぼれるようになりました。

「創作、音楽活動で皆さんと一緒に楽しく過ごせました」。

「また、機会があれば、参加したいと思います」等の感想をいただきました。

とても充実した1日を過ごすことができました。



都立高校奉仕体験活動報告 ～都立北多摩高校～

去る7月28日(土)昭和記念公園で開催された花火大会の翌日、都立北多摩高校1年生320名で、清掃活動を行いました。

今年度から都立高校で必修科目となった(奉仕)体験活動のひとつとして行なったものです。

早朝6時30分に集合し、まず、立川商工会議所の職員の方、清掃業者の方から手順、注意事項などの説明を受け、清掃活動に入りました。

今回、大規模な清掃活動に取組んだ目的は、「花火大会を通してゴミ対策の現状を知ること」「環境、美化を身近なこととして考えること」「まちの営みには色々な人が関わっていることを知ること」でした。

生徒たちは、学校での事前学習で、この花火大会が大きな経済効果をもたらすと同時に立川のまちをPRする大きな手段となっていること。しかし一晩だけで、何と25トンものゴミを生み出していること。



毎年、盛大な花火大会を成功させている裏には、地元の方々のたくさんの協力があることを知りました。

「みんなでまちをきれいに」の気持ちと魅力的なまちづくりを担う活動が街の美化、花火大会を支えていることを知りました。自分たちもまちづくり活動の一員として今回の活動に参加することを知ったのです。

「立川のまちをきれいにするぞ!」という生徒の力強いかけ声から始まったこの活動。

早朝のまだ涼しい時間といっても、夏の野外での活動は大変でしたが、濃密な3時間となりました。



活動で集めたゴミの山

●情報をお寄せください！★みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください●

楽市や立川マラソンなど、団体の資金獲得の場や情報の提供を行なっています。

市民活動センター★

たちかわ通信

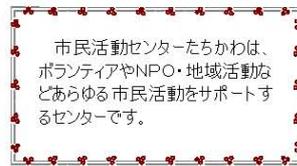


◆編集・発行◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ
〒190-0013 立川市富士見町2-36-47 ☎ 042-529-8323 Fax : 042-529-8714
E-mail : aiavic@whi.m-net.ne.jp URL : http://act.annex-tachikawa.com/

◆開所日・時間◆

月～金曜日 8 : 30 ~ 19 : 00
土曜日 8 : 30 ~ 17 : 15 ※日曜日・祝祭日はお休みです。



2007.11 Vol.44

「秋の楽市」開催!!

「立川しみん祭」「たちかわ商人祭」「立川市農業祭」の3つの合同イベントとして「秋の楽市」が開催されます。

「グループ」広場コーナーには、市民活動センターたちかわの登録団体や立川市社会福祉協議会の団体会員が出店し、「世界ふれあい祭」やお好み焼き、焼きそば、手作り品、リサイクル品の販売などを行います。

みなさんのご来場をお待ちしています。



日時：平成19年11月10日(土)・11日(日)
10:00～16:00
※小雨決行荒天の場合中止
会場：国営昭和記念公園「みどりの文化ゾーン」

■参加団体

【両日参加】

『キャップの貯金箱』運動推進委員会／グループ
いもっこ／グローバルサティスファクトリー／S
P O R T S ・ A C T／立川教育振興会／立川市障
害者後援会／たちかわ多文化共生センター／立川
福祉作業所／立川よいと祭り実行委員会／チャイ
ルドラインたちかわ／ヨガサークル・パドマ／福
祉工房こぶし・チャレンジこぶし／ボイスカウ
ト立川第七団／武蔵立川学園・新田工房／より良い
住宅環境作りを支援する会／ワークセンターまこ
とくらぶ

【10日のみ参加】

柴崎町地区グッドネイバー推進協議会／とっておきのワンシーン／リサイクルショップいろりん

【11日のみ参加】

子育ていれかわりたちかわり実行委員会／立川市手をつなぐ親の会／テイクオフ

<<<今月号のもくじ>>>

○「秋の楽市」開催	P.1
○第3期市民活動センターたちかわ運営委員会始動	P.2
市民活動団体連絡会	
○平成19年度助成金(後期)の審査報告	P.3
教育支援コーディネーター制度	
○情報コーナー	P.4-6
○地域福祉コーディネーター活動報告	P.7
悪質商法撃退キャラバンDVD寄贈	
○市民活動センターからのお知らせ	P.8

より地域に密着した活動を行なう地域福祉コーディネーター。防災や地域猫といった地域の困りごとを住民と一緒に考えています。

「地域づくり」～地域福祉コーディネーター活動報告～

「帰宅困難者図上体験訓練」開催報告

去る10月13日(土)、栄町グッドネイバーをすすめる会と共催で、幸学習館にて「帰宅困難者図上体験訓練」を開催しました。23名の参加者があり、新宿から立川までの帰路を地図上で辿りました。途中で橋が落下、靴擦れがした、歩いていたら真夜中になった、などの困難を想定していきました。「帰宅困難者」というとまだあまり市民に浸透していないかも知れませんが、誰でも外出先で災害に遭遇したときには、冷静に事態に対処をする必要があるのです。内容の濃い訓練でした。帰宅困難に限らず、これからも訓練の切り口を工夫して、住民の皆さんに健全な危機感を身体に身につけてもらえる機会を設けていきたいです。

アンケートでは、「これからお住まいの地域で必要と思われるものは何か」という質問をしました。それに対して

- ・皆さんの防災意識を高めることから始めたい。
 - ・立川を通過する人たちのために幹線道路以外にも位置の分かる標識や目印が必要
 - ・自分の地域防災マップを作成したい
 - ・高齢化している地域にあわせた訓練をしたい
- など、今後の活動につなげるヒントを頂くことができました。

また、防災の取り組みや知識に「この訓練を受ければOK」「コレさえ持っていれば安全」というものは有り得ません。自治会や学校、企業の単位で定期的に防災の取り組みをしたり、話合ったりする機会を絶やさないことが大事です。

コーディネーターとしては、今回のような取り

組みを通して防災に関心のある方にお集まり頂いて、一緒に啓発活動や防災企画作りをすることが必要だと思っています。このような活動にご関心のある方は是非センターにお問合せ下さい。



5,6人くらいのテーブルを囲み、盛り上がりながらの訓練

「野良」猫の問題と災害時のペット保護の課題を地域で解決!

栄町の自治会長さんにヒアリングを順次させて頂く中で「地域の課題」として出てきたのが飼い主のいない猫の問題でした。そこで立川市自治会連合会栄町支部さんとの共催でシンポジウムを開催することになりました。詳細は当センターホームページをご覧ください。

日時 平成19年11月3日(土)13:30より

場所 さかえ会館 集会室にて

講師 「地域猫」の普及活動、災害時の動物保護活動、動物の愛護活動をしている団体より3名の方にお話して頂きます。

※参加費・申し込み不要で、お子さんにも分かりやすくお話しします。

みんなの力で街から悪を追い払いましょう! ～悪質商法撃退キャラバンDVD・演劇脚本集の寄贈を受けました～

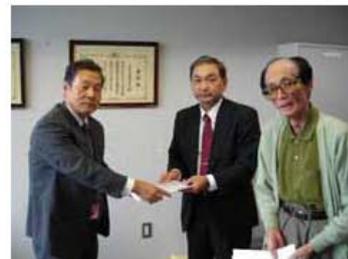
去る10月1日に、「市民劇回キャラバンG ビデオ・脚本頒布会事務局(責任者:坂本弘氏)」さんから、悪質商法撃退キャラバンのDVD及び脚本集の寄贈を100セット受けました。

センターでは、各地の人々が振り込め詐欺や訪問販売被害などの悪質商法の被害が減り、各地で啓蒙活動が起こるよう、都内の社会福祉協議会へ送付させていただきました。

このDVDや脚本集に関心がありましたらお問合せ下さい。

問合せ: 市民活動センターたちかわ

☎042-529-8323



●情報をお寄せください!★みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください●

○Vol.45(平成20年1月発行)

センターの一大イベント。助成金報告会など、団体にとってもより多くの新たな共感者を生み出す場にもなっています。



市民活動センター★

たちかわ通信

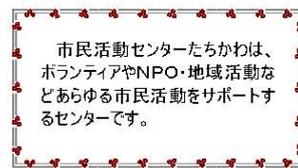


◆編集・発行◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ
〒190-0013 立川市富士見町2-36-47 ☎ 042-529-8323 Fax : 042-529-8714
E-mail : aiaivo@whi.m-net.ne.jp URL : http://act.annex-tachikawa.com/

◆開所日・時間◆

月～金曜日 8 : 30 ~ 19 : 00 ※12月29日(土)～1月3日(木)までお休み
土曜日 8 : 30 ~ 17 : 15 させていただきます。
※日曜日・祝祭日はお休みです



市民活動センターたちかわは、ボランティアやNPO・地域活動などあらゆる市民活動をサポートするセンターです。

2008.01 Vol.45

予告!「市民活動たちかわ祭2008」(仮称)開催

平成20年3月8日(土) 場所:立川市総合福祉センター

これからボランティアや市民活動をしようという方が、気軽に参加でき、情報を得るイベントとして、「市民活動たちかわ祭2008」を開催します。複数の催しを企画していますので、是非ご参加ください。

<開催予定イベント>

●第15回市民おもしろ大学

講師:高橋清輝さん

(立川女子高等学校校長・山岳部顧問)

立川女子高等学校山岳部は、1978年にヒマラヤ初登頂に成功しました。登頂の様子を映像やパネルで紹介するとともに、実際に登頂された同校山岳部顧問の高橋清輝さんからご講演いただく予定です。

●活動資金に関する講座と助成団体活動報告会

講師:土谷和之さん

(NPO法人まちづくり情報センター
かながわ アリスセンター理事)

はじめに、アリスセンター理事の土谷さんから活動資金についてのお話を伺い、その後、市民活動センターたちかわから助成金を受けた団体の活動報告会を行う予定です。



会の様子
昨年度の助成団体活動報告

その他の企画も調整しています。詳細などは、後日、「あいあい通信」、「広報たちかわ」、チラシなどでお知らせいたします。

<<<今月号のもくじ>>>

○市民活動たちかわ祭2008開催予告	P.1
○ふれあいミュージックフェスティバル 2007開催報告	P.2
○第14回市民おもしろ大学開催報告	
○NPO・非営利団体のための「実務運営 あれこれ講座」開催	P.3
○情報コーナー	P.4-6
○地域福祉コーディネーター活動報告	P.7
○貸出し本のご案内	
○市民活動センターからのお知らせ	P.8